

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
法文学部	人文社会学科	夜・通信	94	-	157	251	13	-	
	人文社会学科	夜・通信		-	34	128	13	-	
教育学部	学校教育 教員養成課程	夜・通信		365	2	461	13	-	
社会共創学部	産業 マネジメント学科	夜・通信		22		24	140	13	-
	産業 イノベーション学科	夜・通信				30	146		
	環境デザイン学科	夜・通信				39	155		
	地域資源 マネジメント学科	夜・通信				49	165		
理学部	理学科	夜・通信		38		62	194	13	-
	数学科	夜・通信				-	132		
	物理学科	夜・通信				-	132		
	化学科	夜・通信			-	132			
	生物学科	夜・通信			-	132			

医学部	医学科	夜・通信	94	-	97	191	19	-	
	看護学科	夜・通信			123	217	13		
工学部	工学科	夜・通信		-	-	99	193	13	-
	機械工学科	夜・通信				-	94		
	環境建設工学科	夜・通信				-	94		
	機能材料工学科	夜・通信				-	94		
	応用化学科	夜・通信				-	94		
	情報工学科	夜・通信				-	94		
農学部	食料生産学科	夜・通信		30	-	67.5	191.5	13	-
	生命機能学科	夜・通信				28	152		
	生物環境学科	夜・通信	71			195			
(備考)									
【令和元年度募集停止】									
理学部 数学科、物理学科、化学科、生物学科									
工学部 機械工学科、環境建設工学科、機能材料工学科、 応用化学科、情報工学科									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

愛媛大学修学支援システム シラバス検索 URL https://campus.ehime-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx 閲覧方法： 「開講学部」を選択し、「実務経験のある教員による授業科目」にチェックを入れて検索。
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/about/officers-introduction/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	金融機関常務取締役	2024年4月から 2027年3月末まで	財務
非常勤	弁護士	2024年4月から 2027年3月末まで	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、毎年度、「シラバス登録の手引き」に基づき、前年度の1月末日を目途に担当教員が授業計画(シラバス)を作成し、ガイドラインにしたがった事前チェックを経て、3月上旬には「シラバスデータベース」として大学ホームページ上で公表しています。</p> <p>具体的な項目として、授業の題目・キーワード・目的・到達目標、ディプロマ・ポリシーや愛大学生コンピテンシー※1との関係、授業概要、授業スケジュール、授業時間外学習に関わる情報、成績評価方法、受講条件、受講のルール、教科書・参考書、オフィスアワー、担当教員の連絡先、実務経験のある教員による授業科目等を記載しています。</p> <p>※1 愛大学生コンピテンシー：愛媛大学の学生として卒業時に身につけていることが期待される能力(育成したい学生像)。5つの能力と10の具体的な力で構成されている。 https://www.ehime-u.ac.jp/about/competency/</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページ https://campus.ehime-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学則第20条に「授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の別に定める適切な方法により学修の成果を評価して、単位を与えるものとする。」と規定するとともに、第21条第2項に「各学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。」と規定しています。</p> <p>また、「学業成績判定に関する規程」において、学業成績は試験(筆記、レポート、口述、実演・実技試験等)及び平素の成績(研究報告、小考査、学習状況等)を総合して判定することを明記しています。出席時間数の取扱いとして「各授業科目につき、その開講時数の3分の2以上出席していない者については、その授業科目の学業成績は、判定しない。」こととしており、シラバス作成時には、「出席を学業成績判定の評価基準」としないよう喚起しています。</p> <p>さらに、成績判定に関する学生からの申立ての機会も制度化し、ガイドラインを作成しています。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生自身による学習プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行うために全学共通 GPA を導入しており、入学生全員に配付する冊子「共通教育履修案内」に明記しています。

学生の GPA は、修学支援システムにより、学生本人及び学生生活担当教員が把握することができ、また、学生の履修指導等に使用する「学修ポートフォリオ」にも明示されます。

各学部においては、「成績不振学生の基準」(単位修得状況や GPA、出席状況等)を定めて主体的に指導(補習・個別面談等)しており、定期的に教育学生支援会議で現況や対応状況について情報共有するとともに、必要に応じて全学組織である学生支援ユニット、学習支援ユニットがその対応に加わっています。

全学共通 GPA

全学共通 GPA (成績平均値) … 学生自身による学習プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行うために使用します。

計算方法

履修登録した科目の成績評語を次の表のように GP (grade point) に置き換えます。

GP と成績評価点

GP	評語	計	
4	秀	90~100	授業科目の到達目標を極めて高い水準で達成している。
3	優	80~89	授業科目の到達目標を高い水準で達成している。
2	良	70~79	授業科目の到達目標を標準的な水準で達成している。
1	可	60~69	授業科目の到達目標を最低限の水準で達成している。
0	不可	60点未満	授業科目の到達目標を達成していない。
0	評価しない	出席不足など評価基準に達しない	

全学共通 GPA は、この GP を用いて以下の式で計算します。

$$\text{全学共通GPA} = \frac{4 \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 2 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数} + 0 \times \text{「不可」} \cdot \text{「評価しない」の単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」・「評価しない」を含む)}}$$

※共通教育科目及び専門教育科目の全ての科目が対象となります。ただし、「認定」、「合格」で評価された科目及び履修登録科目の取消を行った科目は GPA の計算式に入りません。

※この他に各学部で独自の目的で使用する目的別 GPA があります。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページ
https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/credit/

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学として、また各学部・研究科・学環として、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、大学ホームページ等で公表しています。</p> <p>また、本学では、学則第 21 条第 2 項に「各学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。」と規定しています。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>(大学のディプロマ・ポリシー) https://www.ehime-u.ac.jp/education/three-policies/</p> <p>(各学部・各研究科・各学環のディプロマ・ポリシー) https://www.ehime-u.ac.jp/education/faculty-three-policies/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/finance/
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/finance/
財産目録	-
事業報告書	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/finance/
監事による監査報告(書)	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 第4期中期目標・中期計画 対象年度: 2022年度~2027年度)	
公表方法: 大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/planning-and-evaluation/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/planning-and-evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/information/planning-and-evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ>愛媛大学規則集 https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○法文学部規則（第 1 条の 2） 学部は、学校教育法、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、幅広い教養と人文・社会科学の専門的知識に立脚しつつ、より高度で創造的な問題発見・解決能力と総合的な判断力を備え、社会的役割を自覚し主体的に行動できる人材を育成するとともに、深く人文・社会科学分野の学芸を教授研究することにより、地域に根ざした学部として社会と文化の発展に貢献することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/1_11_25-3policy.pdf ）
○法文学部のディプロマ・ポリシー <教育理念と教育目的> 愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、法文学部では幅広い教養及び人文・社会科学に関連する基本的な知識に基づいた学問を修めさせることにより、豊かな人間性と創造性に富む自立した人材を養成することを目的としています。また、人文・社会科学分野の学芸を深く教授研究することにより、地域に根ざした学部として社会と文化の発展に貢献することを目的としています。 <育成する人材像> 人間・文化・社会の在り方について、グローバル・マインドに立脚した多角的な視点から、論理的かつ客観的に分析し考察することができる人材を育成します。また、幅広い教養と人文・社会科学の専門的知識に立脚しつつ、より高度で創造的な問題発見・解決能力と総合的な判断力を備え、社会的役割を自覚し主体的に行動できる人材を育成します。 《法学・政策学履修コース》 グローバル化した現代社会の様々な問題は相互に密接な関係にあることから、これらの諸問題の本質を見極め、原因を究明するとともに、その解決策を提言するには、法律学・政治学・経済学などの社会科学に関する総合的、体系的な知識が不可欠です。本コースは、これらの社会科学の知識と分析手法とを根底に置きつつ、現代社会における公共性を捉え直し、法制度の下での政策を再構築する能力を有する人材の育成を目指します。 《グローバル・スタディーズ履修コース》 本コースにおいては、多文化社会の一員として進んで協働的な人間関係を築き、地域に根ざしたグローバルな視点から、地域と世界の接点となる仕事に進んで従事しうる、グローバルな実践知を有する人材の育成を目指します。そのために、以下の 3 点を教育の基本方針とします。 1. グローバルな諸課題と地域の諸課題を、相互の関連性を踏まえたうえで、多角的視点から総合的に検討するため、人文科学と社会科学両分野の学際的教育に力を置きます。 2. 大学での学びを、グローバル化した現代社会で応用できるようにするため、原則としてすべての学生が、海外で自らを「外国人」の立場に置き、そのなかで言語や文化の相違を理解したうえで、協働的な人間関係をつくる体験をさせます。 3. 人文学と社会科学を融合させた幅広い学びを基盤としつつ、専門とする学問分野及び国や地域を選択させ、学士レベルにふさわしい専門的かつ複合的知識を身につけさせます。 《人文学履修コース》 人文学は、思想・歴史・文学・芸術・人間・言語等に関する多様な学問知に立脚しながら、人間によって形成された文化と社会の価値を、グローバルな視点から根源的にかつ多元的に問い直し、社会や共同体の多様な側面を現実即して多角的に探究するものです。本コースでは、人文学の深い教養と知性、論理的思考力を身につけることによって、生涯学び続けることができる知的能力（コンピテンシー）と、グローバル化した現代社会で要求される知識・技能、

及びそれを活用する実践力を涵養します。それにより、どのような環境においても、人間の文化と社会の本質に即して主体的に考え行動し、新たな文化・社会の実現に寄与できる人材の育成を目指します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

1. 幅広い教養と人文社会諸科学の基本的な知識を身につけている。
2. 人文社会諸科学のいずれかの分野の専門的知識と技能を身につけている。

(思考・判断)

3. 人間・文化・社会の在り方について、グローバル・マインドに立脚した多角的な視点から、論理的にかつ客観的に分析し考察することができる。
4. 課題を自ら設定し、それぞれの学問領域の研究手法に即してその解決策を考えることができる。

(興味・関心・意欲、態度)

5. つねに学び続け、身につけた知識・技能を活かしてグローバル化した現代社会に貢献しようとする意欲をもっている。
6. グローバル化した現代社会において、様々な人と協働することができる。

(技能・表現)

7. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することができる。
8. グローバル化した現代社会において活躍できる、的確なコミュニケーション能力をもっている。

《法学・政策学履修コース》

(知識・理解)

1. 人文社会科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。
2. 法学・政治学・経済学といった社会科学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。

(思考・判断)

3. グローバル化した現代社会や組織の諸課題を自ら発見し、グローバル・マインドをもって角的視点から論理的に考察し、総合的に判断することができる。

(興味・関心・意欲、態度)

4. 主体的学びの中で、諸課題に対する関心を積極的に持ちつづけることができる。
5. 社会貢献を念頭に置き、社会や組織の一員として自覚と責任を持ちながら他者と協働することができる。

(技能・表現)

6. 諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析することができる。
7. 様々な言語やツールを活用することで、自らの思考・判断のプロセス及び結果をわかりやすく説明することができる。

《グローバル・スタディーズ履修コース》

(知識・理解)

1. 人文科学と社会科学両分野の基礎的知識を身につけている。
2. 人文科学・社会科学のある特定の専攻分野における専門知識及び活用技法を身につけている。

(思考・判断)

3. グローバリゼーションに伴う諸問題にグローバル・マインドをもって多角的・多面的に取り組むため、実体験に支えられた教養と知識（グローバルな実践知）に基づいて、自ら課題を設定し論理的に考察することができる。

(興味・関心・意欲、態度)

4. 国際社会・多文化社会の一員としての自覚を持ち、文化の違いや国境を越えて、協働的な人間関係を形成することができる。
5. 課題の設定や達成に必要な知識と実体験を、自ら積み重ねることができる。

(技能・表現)

6. 国際的・多文化的な活動に必要な語学力を有している。
7. 必要な情報を幅広く収集し、整理・分析することができる。
8. 自らの思考の過程と結果を、明確に説明することができる。

ミ論文) をまとめます。

《グローバル・スタディーズ履修コース》

グローバル・スタディーズ履修コースには、コース指定科目として【専門基盤科目群】

【専門展開科目群】【演習科目群】及び【卒業論文】を配置します。

- ・【実践科目群】にはグローバル・コア領域科目を配置し、学生が自分の進路を構想しつつ、交渉力・協働力などの汎用的能力や外国語運用能力を強化します。
- ・専門基盤科目群では、学生が人文・社会科学の諸分野を学ぶうえで基盤となる知識とスキルを身につけるため、基幹的な諸科目を置きます。
- ・専門展開科目群では、学生が人文・社会科学の各分野での学びをさらに進めるために必要な知識とスキルを身につけるため、応用的な諸科目を置きます。
- ・演習科目では、学生がこれまでに身につけた知識やスキルを深め統合し、新たな問題を発見しその解決に貢献する能力を身につけるため、少人数教育を徹底します。
- ・卒業論文は、大学における学修の総仕上げの科目であり、主指導教員による指導をうけて作成されます。
- ・卒業までに原則としてすべての学生が海外体験できるカリキュラムを設定します。

《人文学履修コース》

人文学履修コースには、コース指定科目として【専門基盤科目群】【専門展開科目群】

【演習科目群】及び【卒業論文】を配置します。

- ・専門基盤科目群には、基礎的知識と方法の基本を学ぶ各分野の概論科目を置きます。
- ・専門展開科目群には、専門基盤科目で修得した知識や基本的な方法に基づいて、より専門的な知識や方法を身につけるために特講を設けます。
- ・演習科目群には、少人数指導によって専門教育を充実するために、基礎演習と専門演習を置きます。
- ・卒業論文は、大学における学修の総仕上げの科目であり、主指導教員による指導をうけて作成されます。

<教育方法と成績評価>

- ・幅広い教養と人文・社会科学の専門的知識に立脚したより高度で創造的な問題発見・解決能力と総合的な判断力を涵養するために講義、演習、実験、フィールドワーク、e-ラーニングなど、科目の教育目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・ディプロマ・ポリシーの技能・表現を達成するために、一部の科目で、反転授業、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション形式のアクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的な学びを促進し、表現力・コミュニケーション能力を涵養します。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限（CAP 制）を設けるとともに、e-ラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。
- ・カリキュラムマップで科目の関連性を示すとともに、専門志向・キャリアパスに応じた履修モデルを提示するほか、学年ごとのガイダンスを実施し、学生個々の履修計画をサポートします。
- ・成績優秀者については3年以上の在学期間をもって卒業させることができる早期卒業制度を設けています。
- ・提携大学との単位互換、他学部・他大学・海外の大学の科目の単位認定などについても柔軟な対応をします。
- ・すべての授業科目において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験・口頭試問・レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。

<カリキュラムの評価>

授業アンケート、入学者アンケート、卒業生アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、法文学部の学修到達目標の達成状況について検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/1_11_25-3policy.pdf)

○法文学部のアドミッション・ポリシー

法文学部では、人文・社会科学の知識を基盤とした幅広い教養と実践力を身につけた、汎用的能力の高いグローバル人材を育成することを目的とします。そのため、法文学部は次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解)

1. 高等学校等で学習する国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報などについて、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。

(思考・判断)

2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲・態度)

3. 人間及び人間の創り出した文化や現実の社会から提起される諸問題に興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、勉学の成果をグローバル化した現代社会に活かしたいと考えている。

(技能・表現)

4. 所与の問題について、自分の考えを日本語でわかりやすく表現できる。

<選考方法の趣旨>

【一般選抜 前期日程】

大学入学共通テストでは、高等学校等で履修する主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を幅広く身につけているかをみるために、6又は7教科8科目を課しています。また、個別学力検査等では、入学後の修学に必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかをみるために、昼間主コースでは国語と英語を、夜間主コースでは国語を課しています。さらに、勉学への意欲や関心、実践的活動などをみるために、調査書の提出を求めています。

【一般選抜 後期日程】

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの基礎的な知識、思考力、判断力を身につけているかをみるために、3教科3科目を課しています。また、個別学力検査等では、物事を多様な側面から考察し、主体的に自らの考えを確立して、それをわかりやすく表現できるかをみるために、小論文を課しています。さらに、勉学への意欲や関心、実践的活動などをみるために、調査書の提出を求めています。

【総合型選抜】

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの基礎的な知識、思考力、判断力を身につけているかをみるために、3教科3科目を課しています。また、人間や文化、社会の諸問題について主体的な関心を持ち、多様な人々と協働しながら勉学の成果をグローバル化した現代社会に活かしたいという強い意欲を有しているかをみるために、面接（口頭試問を含む。）を課しています。

さらに、勉学への意欲や関心、実践的活動などをみるために、志望理由書・調査書・活動報告書の提出を求めています。

【学校推薦型選抜】

物事を多様な側面から考察し、主体的に自らの考えを確立して、それをわかりやすく表現できるかをみるために、小論文を課しています。また、人間や文化、社会の諸問題について積極的な関心を持ち、多様な人々と協働しながら勉学の成果をグローバル化した現代社会に活かしたいという強い意欲を有しているかをみるために、面接（口頭試問を含む。）を課しています。さらに、高等学校レベルの基礎知識や学力、勉学への意欲や関心、実践的活動などをみるために、推薦書・調査書・活動報告書の提出を求めています。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ>愛媛大学規則集

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/>)

○教育学部規則（第2条）

学部は、学校教育法、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知識、道徳的及び応用的能力を展開させ、教育文化の創造と発展に貢献することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R6_edu3policy.pdf

○教育学部のディプロマ・ポリシー

<教育理念と教育目的>

学校教育は、社会の発展を牽引する人材を育成するための中心的な機能です。教育学部は、その学校教育を支える優れた教員を輩出することにより社会に貢献することを使命としています。

教育学部学校教育教員養成課程は、教育発達実践コース（幼年教育サブコース、小学校教育サブコース、特別支援教育サブコース）、初等中等教科コース（言語社会教育サブコース、科学教育サブコース、生活健康・芸術教育サブコース）からなり、実践的なカリキュラムと、相互に尊重し啓発しあう学びを保障することで、確かな教育実践力と豊かな人間性とを兼ね備えた学校教員を養成します。

<育成する人材像>

愛媛大学の基本理念に基づいて、「学生中心の大学」として学生の多様な志向性を尊重した実践的なカリキュラムと、相互に尊重し啓発しあう学びを保障することで、確かな教育実践力と豊かな人間性とを兼ね備えた、学校教育を支える優れた教員を輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

1. 教育と教職に関する確かな知識と得意とする分野の専門的知識を、適切な指導法と関連づけて修得している。

(技能)

2. 教育活動に取り組むための十分な技能（ICT活用指導力を含む）を身につけている。

(思考・判断・表現)

3. 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。

(興味・関心・意欲・態度)

4. 教師としての使命感や責任感を持ち、教育的愛情をもって幼児・児童・生徒に接することができるとともに、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけて主体的に学び続けることができ、自主的に社会に貢献しようとする。

<卒業認定・学位授与>

教育学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R6_edu3policy.pdf

○教育学部のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

教育学部学校教育教員養成課程には、教育発達実践コースおよび初等中等教科コースがあります。教育発達実践コースには幼年教育サブコース、小学校教育サブコース、および特別支援教育サブコースを、初等中等教科コースには、言語社会教育サブコース、科学教育サブコース、および生活健康・芸術教育サブコースを設置しています。カリキュラムの構成は、共通教育科目と専門教育科目と自由選択からなります。

共通教育科目を通して、社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を基に、社会人として必須の基礎力・汎用的基礎力を身に付けます。

専門教育科目として、

- ・関係分野の専門的学識・技能を修得するための科目（DP1、DP2に対応）
- ・初年次から体系的な実践・省察を重視した実習カリキュラム（DP3、DP4に対応）

が用意されています。これらにより、学生は理論を学び、実践の場でその活用を試み、他者との交流を通じた省察によって真摯に自らを振り返り、さらに関心・意欲を高め、学びを深めていきます。

<教育方法と成績評価>

- ・講義、演習、教育実習、体験学習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学修の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施し

- ます。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限を設けています。
 - ・すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。

<カリキュラムの評価>

授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析、各教育委員会などの関係者からの意見聴取を実施し、個々の授業科目の教育効果や、教育学部の学修到達目標の達成状況について検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R6_edu3policy.pdf

○教育学部のアドミッション・ポリシー

教育とは次世代を創造する営みです。教育学部は子どもの心を深く理解し、幅広い教養と実践的指導力、現代的課題解決能力、専門性を兼ね備えた教員の養成を目指しています。本学部は、教員養成学部としての重要性を自覚し、教育発達実践コース（幼年教育サブコース、小学校教育サブコース、特別支援教育サブコース）、初等中等教科コース（言語社会教育サブコース、科学教育サブコース、生活健康・芸術教育サブコース）からなる各コースの特徴ある専門教育を実施しています。「人を育む」という観点から、多様化・複雑化する教育課題に的確に対応できる人材を育成し、社会に送り出します。この目的のために、次のような資質・能力を有する学生を求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。
(知識・理解)
 - ①高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。(知識・理解、技能)
 - ②教員養成カリキュラムを履修するのに必要な、教科にかかわる知識や、体育、音楽、美術などの実技能力を有している。(思考・判断・表現)
2. 物事を多面的かつ論理的に思考・判断することができ、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
(興味・関心・意欲)
3. 子どもの育ちや教育にかかわる諸問題に深い関心をもち、教師として社会に主体的に貢献する意欲を明確に有している。
(態度)
4. 積極的に多様な他者と協働し、対話を通して主体的に相互の理解に努めようとする態度を有している。

【学校教育教員養成課程のアドミッション・ポリシー】

幼児・児童・生徒の発達や学習、障害などの様々な教育的ニーズに対して幅広い興味と関心をもち、教育に関する諸問題について、自ら積極的に解決し、教師として社会に貢献しようとする意欲のある人を求めています。

教育や発達、教科、障害などに関する課題を積極的に探究し、解決に向けて自ら思考し、対話を通して相互理解に努めようとする人、個々の子どものニーズに柔軟に対応し、すべての子どもたちが輝く教育の創造に努めようとする人の入学を期待します。

【一般選抜 前期日程】

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力をみるために、5教科6科目を課しています。

幼年教育サブコース、特別支援教育サブコース、言語社会教育サブコースおよび科学教育サブコースの個別学力検査では、国語、数学、理科、外国語のいずれか一科目の筆記試験により、入学後の修学に必要な基礎知識、基礎的な技能、思考力、表現力等を総合的に評価します。

小学校教育サブコースの個別学力検査では、筆記試験（国語、数学、理科、外国語のいずれか一科目）、グループワークまたは実技試験（体育実技、音楽実技、美術実技のいずれか一科目）により、入学後の修学に必要な基礎知識、基礎的な技能、思考力、表現力等を総合的に評価します。

生活健康・芸術教育サブコースの個別学力検査は、教科ごとに指定された試験（グループワーク、体育実技、音楽実技、美術実技のいずれか一科目）により、入学後の修学に必要な基礎知識、基礎的な技能、思考力、表現力等を総合的に評価します。

筆記試験、グループワーク、実技試験に加えて、初等教育及び中等教育への強い関心と、教員を目指すという強い目的意識、勉学意欲、基礎的知識等を持ち、緊張した状況下でも落ち着いて他者に自分の考えを自らの言葉で伝えられる自己表現力やコミュニケーション能力を有しているかをみるために、集団面接試験を課しています。また、高校生活における活動歴等を踏まえ、関心、意欲、態度等をみるために、調査書、活動報告書等を課しています。

【一般選抜 後期日程】

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力をみるために、5教科または6教科7科目を課しています。初等教育および中等教育の教員を目指すという強い目的意識、勉学意欲、基礎的知識等を持ち、緊張した状況下でも落ち着いて他者に自分の考えを自らの言葉で伝えられる自己表現力やコミュニケーション能力を有しているかみるために、集団面接試験を課しています。また、高校生活における活動歴等を踏まえ、関心、意欲、態度等をみるために、調査書、活動報告書等を課しています。

【総合型選抜Ⅱ】

初等教育および中等教育の教員を目指すという強い目的意識、勉学意欲、基礎的知識等を持ち、緊張した状況下でも落ち着いて他者に自分の考えを自らの言葉で伝えられる自己表現力やコミュニケーション能力を有しているかみるために、面接試験または集団面接試験を課しています。また、高校生活における活動歴等を踏まえ、関心、意欲、態度等をみるために、調査書、活動報告書等を課しています。

(特別支援教育サブコース)

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力をみるために、大学入学共通テストで5教科5科目を課しています。また、面接試験では、特別支援教育への強い関心と、特別支援教育教員を目指す目的意識や情熱を有していることも確認します。

(小学校教育サブコース)

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力をみるために、大学入学共通テストで5教科5科目を課しています。また、集団面接試験では、初等教育への強い関心と、小学校教員を目指す目的意識や情熱を有していることも確認します。

(言語社会教育サブコース、科学教育サブコース)

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力をみるために大学入学共通テストで5教科5科目を課しています。また、集団面接試験では、初等中等教育への強い関心と、教員を目指す目的意識や情熱を有していることも確認します。

(生活健康・芸術教育サブコース)

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力をみるために大学入学共通テストで、家庭教科および体育・保健体育教科は5教科5科目、音楽教科および図画工作・美術教科は3教科3科目を課しています。また、家庭教科における面接試験（プレゼンテーションを含む。）、体育・保健体育教科における集団面接試験、音楽教科および図画工作・美術教科における面接試験では、初等中等教育への強い関心と、教員を目指す目的意識や情熱を有していることも確認します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

初等教育および中等教育への強い関心と、教員を目指すという強い目的意識、勉学意欲、基礎的知識等を持ち、緊張した状況下でも落ち着いて他者に自分の考えを自らの言葉で伝えられる自己表現力やコミュニケーション能力を有しているかみるために、集団面接試験を課しています。また、高等学校レベルの基礎学力をみるために、大学入学共通テストでは3教科3科目を課しています。さらに、高校生活における活動歴等を踏まえ、関心、意欲、態度等をみるために、調査書、活動報告書等を課しています。

学部等名 社会共創学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ>愛媛大学規則集

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/>)

○社会共創学部規則（第2条）

学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、多様な地域ステークホルダーと協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、様々な地域社会を価値創造へと導く力（＝「社会共創力」）を備えた人材を育成するとともに、地域と大学とが一体となった教育研究により、地域社会の持続可能な発展に貢献することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/3_0_25_3-policy-cri.pdf)

○社会共創学部のディプロマ・ポリシー

<教育理念と教育目的>

社会共創学部は、伝統的な学問の枠組みを越えて、地域社会の諸課題の解決に資する文理横断的な専門領域を体系的に編成し、地域ステークホルダーとの協働による課題解決型教育研究を行っています。

地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、デジタル化やグローバル化の進展、少子高齢化や自然災害発生などが地域社会に一層不確実で複雑な課題をもたらしており、従来の単一の専門的知識や理論だけでは、地域社会の課題の解決やイノベーションの創出が困難になりつつあります。そのため、これらの課題に対して、社会共創学部では、文理横断的な教育研究を推進することにより多面的な視点から事象を理解し、課題の設定と解決に取り組める人材を育成します。また、個々の現実的課題の解決に必要な知見や技術を創出するために、地域の特性を生かした多様な実践プログラムを導入し、知的活動と展開を通して、理論と実践を融合した共創的課題解決力を修得させ、持続可能な地域社会を牽引する未来創造型人材を育成します。

<育成する人材像>

社会共創学部は、不確実性や複雑性が高まる地域社会を持続可能な発展へと導くために、地域ステークホルダーと協働しながら、課題の解決策を企画・立案するだけでなく、知的展開に基づいた実践活動を通して、地域社会の未来を牽引する人材の育成を目指します。また、そうした人材には、国内外の諸課題に対して自ら積極的に関心を持ち続けていること、文理横断的な学問領域における教養と専門知識を身につけていること、高度化・複雑化する社会の中で地域課題の本質を見極められること、理論と実践を融合した共創的課題解決力を備えていることが求められています。

<学習の到達目標>

(知識・技術)

1. 文系や理系の広範な学問領域における教養や専門的知識及び技術を身につけている。

(思考・判断)

2. 国内外の諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。

(興味・関心・意欲)

3. 地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心を持ち続けることができる。

4. 地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、地域社会の諸課題の解決に取り組むことができる。

(技能・表現)

5. 地域社会の諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。

6. 自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすく伝えることができる。

(協働・リーダーシップ)

7. 地域社会の諸課題の解決に向けて、協働力とリーダーシップを発揮することができる。

<卒業認定・学位授与>

社会共創学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、かつ社会共創 GPA が卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/3_0_25_3-policy-cri.pdf)

○社会共創学部のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

社会共創学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を定めます。

・共通教育科目のカリキュラム（教育課程）

社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養を基に、専門教育の礎を固め、豊かな人間性と創造性を養います。

・専門教育科目のカリキュラム（教育課程）

専攻する特定の学問分野における専門的知識及び関連知識・技術を体系的に理解し、知的活動を通して共創的課題解決力を修得するために、本学部は、専門教育科目を「基礎力育成科目群」「実践力育成科目群」「課題解決思考力育成科目群」「専門力育成科目群」「学位認定科

目群」「自己デザイン科目」に区分します。

1. 基礎力育成科目群では、地域課題の把握から解決までの基本的な知識や考え方、持続可能な社会の在り方、地域産業の発展を根拠から支える企業や組織のマネジメントに関する科目を配置します。
2. 実践力育成科目群では、知的活動を通して、専門知識の活用力と、理論に裏打ちされた実践力を修得するために、フィールド・プロジェクト演習科目、キャリア育成科目、実践力育成発展科目を配置します。フィールド・プロジェクト演習科目では、地域社会の課題発見から解決策の導出・提案、現場での協働に至るまでの基礎的・応用的知識を修得するために、フィールドワークのための基礎的な実践をもとに、プロジェクト系演習科目を学年進行に応じて配置します。キャリア育成科目では、学修成果のふりかえりと省察を行い、今後の学びの方向性と目標を明確にするための科目や、自己確立とキャリア探求の基礎を構築する科目を配置します。実践力育成発展科目では、多様な地域ステークホルダーと協働し、複眼的な洞察力・想像力・課題解決力を身につけるために必要な知識と技術を中心に据え、各専門分野における座学や演習科目を配置します。
3. 課題解決思考力育成科目群では、課題の発見・解決に必要な分析力と深い思考力ならびに学問分野横断的思考を養うため、各学科の専門分野の基礎知識を総合的かつ体系的に学ぶ科目を配置します。
4. 専門力育成科目群では、基礎力育成科目群で修得した共創的課題解決力を基礎に、より高度な専門知識や理論を修得します。知的活動の展開を通して地域社会の課題解決ができるようにするため、学科共通科目として各学科で必要とされる高度で深みのある必修科目を配置するとともに、学問系統ごとにそれに関連する科目を配置します。さらに、実践力育成科目群の学びで得た新たな興味・関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他学科・他学部科目の履修を推奨します。
5. 学位認定科目群では、これまで修得した理論知と実践知を融合し、多面的な視点から課題の解決と新たな価値創造につなげていくために、卒業研究・自由課題研究を配置します。
6. 自己デザイン科目では、自己のキャリアデザインのために、多様化する社会に対応すべく、幅広く専門的知識や技能を主体的に身につける科目を配置します。

<教育方法と成績評価>

- ・専門分野の理論と実社会における実践での学びを往還することで、理論と実践力を融合させ、地域課題を解決へと導くための教育を展開します。
 - ▷専門分野の多くの授業において、PBL やグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、学生の能動的な学びを促します。
 - ▷フィールドやプロジェクトによる実践科目を学年進行に応じて継続的に配置し、地域課題の解決に向けた構想力・協働力を高めます。
- ・文理横断的教育を行い、多様な視点から地域課題の本質を把握する能力や、解決に必要な深い思考力を身につけさせます。
- ・インターンシップやキャリア科目によって社会で働くための視点や素養を磨き、地域社会に求められる人材となるように、自己確立を促進させます。
- ・学生は学部独自の学修ポートフォリオを定期的に作成し、ふりかえりや省察に基づく自己評価及び目標設定を行います。自己の学修のふりかえりを通して、主体的に学び続ける力を身につけさせます。
- ・授業時間外学修に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限を設けています。
- ・すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。
- ・卒業見込基準として、3年次後学期終了までに修得しなければならない単位数や授業科目及び社会共創 GPA を定めています。卒業要件として社会共創 GPA 基準を設けています。

<カリキュラムの評価>

授業アンケート、卒業生予定者アンケートなどの調査及び学生と教員との懇談を実施し、専門教育科目の教育効果や実施方法を検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/3_0_25_3-policy-cri.pdf)

○社会共創学部のアドミッション・ポリシー

社会共創学部は、地域社会を持続可能な発展へと導くために、地域ステークホルダーと協働しながら、課題の解決策を企画・立案するだけでなく、知的展開に基づいた実践活動を通して、地域社会の未来を牽引する人材を育成します。

このため、社会共創学部では、以下のような入学者受入の方針を定め、地域の課題解決に取り組む意欲のある人材を求めます。

(知識・理解)

1. 高等学校卒業相当の基礎知識と理解力を有している。

(思考・判断)

2. 目標を達成するために、多面的視点から論理的に考察し、自己の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲・協働)

3. 地域社会の持続可能な発展に関心を持ち、積極的に関わろうとする意欲を有している。

4. 様々な人々と協働しながら、主体的に問題の発見とその解決に取り組む姿勢を有している。

(技能・表現)

5. 他者の意見を理解し、自己の考えを口頭又は文書でわかりやすく表現できる。

学部等名 理学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ>愛媛大学規則集

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/>)

○理学部規則（第2条）

学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、教養教育と専門教育の両面から、人間性、社会性及び国際性に裏打ちされた専門的科学的知識を学生に修得させ、社会活動において科学的思考能力に基づき課題を発見し、解決できる人材を育成するとともに、深く理学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/4_0_25_3-policy-sci.pdf)

○理学部のディプロマ・ポリシー

<学部の教育理念と教育目的>

科学は、数理、物質、自然、生命を支配する原理や法則を探究する学問で、現代文明の基礎であると同時に人類共有の知的財産です。科学を進展させ、新しい知・技術・文化を生み出す原動力は、「未知なるもの」に対する好奇心とそれを探究するチャレンジ精神です。「過去を知り・現在の発展を支え・未来を拓く」—この科学の原点に立って、将来の社会・科学・文化を担う市民・職業人となる理系人材を育て、社会に貢献することが理学部の教育の目的です。

理学部は、社会の様々な分野で活躍するための基礎知識・技能、探究力・応用力、人間性・コミュニケーション力を養う教育を行います。

<育成する人材像>

理学部は、教育カリキュラムを通して「理学の体系的学識に由来する知性」・「科学に根差した汎用能力」・「高い教養に基づく豊かな人間性」を涵養し、社会が理学部卒業生に市民・職業人として期待する「倫理観・責任感に裏付けられた地に足をつけた人間性と、急速な社会環境の変化や多様な課題に柔軟に対応できる知性を備え、様々な人々と協働しながら主体的に行動し貢献する意志を持つ、自然科学の素養を持った理系人材」を継続的に輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

1. (広い教養・基礎学力と汎用的能力)

理学全般にわたる基盤的な学力と、人文科学・社会科学などの一般教養、日本語・英語の読解力・表現力、情報リテラシー・コミュニケーション能力などの汎用能力を修得し、それらを活用することができる。

2. (科学の体系的基礎学識・技能・科学的思考力)

科学の体系的基礎学識と基盤技能を修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。

3. (協働する姿勢・能力)

修得した科学的センスと高い教養に基づく価値観・倫理観・責任感のもと、様々な人々と能動的に関わり協働することができる。自己啓発・自己研鑽を継続する努力ができる。

<卒業認定・学位授与>

理学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位(学士)を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:大学ホームページ)

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/4_0_25_3-policy-sci.pdf

○理学部のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育の内容>

理学部では、高等学校教育との接続性、基礎から発展・応用へと接続する専門分野ごとの体系的性、学生個々の多彩な知的好奇心・キャリアプラン・学修目的に対応できる柔軟性、を確保するカリキュラムを編成します。カリキュラムは全学共通教育科目と理学部専門教育科目で構成され、年次進行に沿って基礎から発展・応用へ段階を踏んで学べるように配慮されています。専門教育科目は、理学の基幹分野・学際分野を専門とする理学部及び関連センター等の教育研究者により実施されます。また、学内外の第一線級の研究者による特別講義、汎用的能力を涵養するキャリア教育プログラムが適宜開講されます。

理学部理学科には、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の5教育コースが設置されています。1年次は全学共通教育科目・理学部共通基礎科目を中心にバランスよく履修し、大学生としての教養・学びの基礎・キャリアビジョンを育むとともに、外国語・数学・理科の基礎を学び、理系人材として自律的に成長していく上での基盤を身に着けます。理学部共通基礎科目は、理学の専門分野を学ぶ基礎となる理数の学力を確立すると同時に、科学を俯瞰し、学習意欲を高めます。2年前期開始時に志向・目標に沿った教育コースを選択して専門領域に踏み出し、コースの履修モデルに沿って学修して体系的な知識とスキルを修得します。4年次には指導教員を定め、特別演習・特別研究・課題研究の個別あるいは少人数型の実践的科目を通して個性や能力を磨き、広い視野と論理的な問題分析・解決能力を育みます。

2年後学期開始時に選択する履修プログラムは、卒業後のキャリアパスを見据えた特徴ある履修プランの構築を可能にします。標準プログラムは、各コースが開講する専門教育科目を標準履修モデルに沿って体系的に学修し、コースの基幹分野における標準的専門知識と実験等の基礎技能を修得する基本の履修プログラムです。科学コミュニケーションプログラムは、理学の汎用的基礎知識・技能を背景に科学を伝える力を磨き、人と技術・文化の橋渡しをする役割を担うキャリアを目指す学生のための履修プログラムです。課題挑戦プログラムは、宇宙物理学・地球惑星科学・環境汚染動態学・海洋学分野の学際的先端科学に関わる研究能力を養成するための特別科目を履修するカリキュラムで構成されます。どのプログラムを選択しても、卒業に必要な要件は同じです。

<教育方法と成績評価>

- ・講義、演習、実験、体験学習、ディスカッション・グループワーク、E-ラーニングなど、科目の教育目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・一部の科目で、反転授業・プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション形式のアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学びを促進し、表現力・コミュニケーション能力を涵養します。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限(CAP制)を設けるとともに、E-ラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。
- ・カリキュラムマップで科目の関連性を示すと同時に、専門志向・キャリアパスに応じた履修モデルを提示するほか、学年ごとのガイダンスを実施し、学生個々の履修計画をサポートします。
- ・全科目で、筆記試験・レポート・口頭試問などの客観的方法による厳正な成績判定を実施します。
- ・成績優秀者を対象とする3.5年の早期卒業・早期大学院進学制度を設けます。
- ・4年間のカリキュラム中に必修科目のない Semester またはクォーターを設定するほか、カリキュラムを3.5年に短縮する制度を設け、在学中の留学等を支援します。
- ・協力大学との単位互換、他学部・他大学・海外の大学の科目の単位認定、他学部などへの進路変更などについても柔軟な対応をします。

＜カリキュラムの評価＞

授業アンケート、入学者アンケート、卒業生アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、コースの学修到達目標の達成状況について検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/4_0_25_3-policy-sci.pdf)

○理学部のアドミッション・ポリシー

科学は、数理、物質、自然、生命を支配する原理や法則を探究する学問であり、身の回りの「何故」に対する合理的な答えを知りたいという知的好奇心が積み重なって発展してきました。理学部は、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の理学5基幹分野を基盤に、宇宙・地球・環境に関連する学際的分野に携わる先端研究院の研究センター群と協働して教育・研究を実施しています。理学部は、数理・物質・自然・生命にかかわる事柄に広く興味を持ち、科学を体系的に学習して理系人材として社会で活躍しようと志す入学者を受け入れ、各教育コースの特徴ある専門教育を通して汎用能力を有す理系人材として育成し、社会に送り出します。

この目的のために、理学部では次のような資質を有する学生を求めます。

1. 高校課程修了レベルの知識・教養を広く修得しており、自律的に学習を進める準備がある。
2. 高校課程の数学または理科の十分な基礎学力を有し、数理・物質・自然・生命の探究に興味を持ち、科学をさらに深く学び理解しようとする意志がある。
3. 物事を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現することができる。
4. 継続的な学習により成長し、倫理観・責任感をもって主体的に社会とかかわり貢献しようと志している。

＜選考方法の趣旨＞

多彩な入学者を受け入れるため、3種類の選抜試験を実施します。それぞれの選抜試験では、理学を学ぶための学力・意志・適性が備わっているかを異なる方法で評価します。

【一般選抜 前期日程】

前期日程では、理学部での学習を通して成長し理系人材として活躍しようと志す入学志願者を広く受け入れるため、大学入学共通テスト、筆記試験、及び調査書による評価を実施し、入学後の修学に必要な基礎学力・論理的思考力・表現力・理学に対する意欲・適性を総合評価して選抜します。

大学入学共通テストでは、6教科8科目を課し、入学後の修学に必要な総合的な学力基盤を確認します。

筆記試験では、数学、物理、化学、生物、地学のいずれか1科目の記述式試験により、理学分野における基礎知識・理解力・論理的思考力・表現力などを総合的に評価します。

調査書では、総合的な探究の時間、特別活動、その他の項目により、学習への取り組み姿勢・主体性・他者と協働する態度などを総合的に評価します。

【一般選抜 後期日程】

後期日程では、理学を学ぶ強い意志と基礎学力・思考力を有する入学志願者を受け入れるため、大学入学共通テスト、筆記試験（数学）または口頭試問を含む面接、及び調査書による評価を実施し、入学後の修学に必要な基礎学力・論理的思考力・表現力・理学に対する意欲・適性を総合評価して選抜します。

大学入学共通テストでは、6教科8科目を課し、入学後の修学に必要な総合的な学力基盤を確認します。

筆記試験（数学）では、記述式試験により、数学についての理解力・論理的思考力・計算力・表現力などを総合的に評価します。口頭試問を含む面接では、理学に関わる基礎的知識・理解力・論理的思考力・表現力・目的意識・勉学意欲などを総合的に評価します。

調査書では、総合的な探究の時間、特別活動、その他の項目により、学習への取り組み姿勢・主体性・他者と協働する態度などを総合的に評価します。

【学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱ】

学校推薦型選抜では、理学の特定の分野に対する志向が強い入学志願者を受け入れるため、教育コースごとに推薦書・調査書・活動報告書による評価と口頭試問を含む面接を実施し、入学後の修学に必要な基礎学力・論理的思考力・表現力・専門分野に対する意欲・適性を総合評価して選抜します。学校推薦型選抜Ⅱでは、さらに大学入学共通テストによる第2次選抜を実施します。

推薦書・調査書・活動報告書では、高校等で学習した全科目の学業成績により幅広い分野の基礎学力の達成度を確認するとともに、総合的な探究の時間、特別活動、その他の項目や活動記録により、学習への取り組み姿勢・主体性・他者と協働する態度などを総合的に評価します。

口頭試問を含む面接では、志望教育コースの分野に関する基礎的知識・理解力・論理的思考力・表現力・目的意識・勉学意欲を総合的に評価します。

学校推薦型選抜Ⅱの第2次選抜の大学入学共通テストでは、国語、数学、理科、外国語および情報の5教科7科目を課し、総合的な基礎学力を評価します。

学部等名 医学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ＞愛媛大学規則集

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/>）

○医学部規則（第2条）

学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的とする。

医学科においては、学部の基本理念に基づき、我が国における医学水準の向上を図り、その成果を国民の保健衛生及び医療に正しく反映させるとともに、地域社会に貢献することを目的とする。

看護学科においては、学部の基本理念に基づき、看護・保健に関する高度の専門的知識と優れた技能を有する専門職者として指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

医学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/5_1_25-3med.pdf

看護学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/5-2_25-3nur.pdf)

○医学科のディプロマ・ポリシー

＜教育理念と教育目的＞

『患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療』という医学部開設の基本理念に基づき、教育目的を次のように定めています。医学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的としています。

さらに医学科においては、学部の基本理念に基づき、我が国における医学水準の向上を図り、その成果を国民の保健衛生及び医療に正しく反映させるとともに、地域社会に貢献することを目的としています。

＜育成する人材像＞

愛媛大学の基本理念に基づいて、「学生中心の大学」として学生の多様な志向性を尊重した医学教育を提供することにより、地域から求められる役割に応え、地域発展を牽引し、患者のために全人的視点から最善を尽くす医師・医学研究者を育成します。また優れた研究医養成モデルを構築し、基礎・臨床研究や橋渡し研究を担う人材を輩出することを目指します。

＜学習の到達目標＞

（知識・理解）

1-1) 医師として必要な専門分野の学問内容の知識を修得している。

1-2) 卒後臨床研修に備えて、医療倫理や医療法制・医療経済、医療安全やEBM、医学における科学的手法などについての実践的な知識を有している。

1-3) 自然科学にとどまらない医療人としての幅広い教養、マナーや一般常識を身につけて

いる。

(思考・判断)

2-1) 分子レベルから集団レベルまでの生命現象を解明する適切な方法を指摘し、明らかとなった現象を簡潔に表現して第三者に伝えることができる。

2-2) 患者と家族の身体的・心理的・社会的な健康状態および疾病の状態を把握し、情報を総合することによる適確な判断に基づいて、必要な行動を示すことができる。

(興味・関心・意欲)

3-1) 都市部から中山間地域や島嶼部までを包含する地域に関心を持ち、将来従事する医療の領域に関わらず医師として社会に貢献する意欲をもっている。

3-2) 少子高齢化、医療の国際化、健康障害の多様化など、様々な社会の医療ニーズの変化に対応して、適切な方法で最新の医学知識や医療情報を収集・整理し、生涯を通して自ら学び向上する意欲を持つことができる。

(態度)

4-1) 豊かな人間性を涵養し、医師としての自覚と責任、適切な倫理観をもって、患者から学ぶ姿勢で行動することができる。

4-2) 医学の進歩のために基礎・社会医学と臨床医学との両面での研究が不可欠であることを認識し、自らも研究マインドをもって医療を行うことができる。

(技能・表現)

5-1) 基礎的な医療行為を患者にも自らにも安全に実施することができる。

5-2) 患者・家族や保健・医療・福祉チームの多様なメンバーと良好なコミュニケーション(簡単な英語によるものを含む)をとり、チームの一員としての役割を主体的に果たすことができる。

<卒業認定・学位授与>

医学部規則に定められた単位数を修得した学生に対して、卒業を認定し学位(学士[医学])を授与します。卒業判定には、6年次までの全ての単位を修得していることに加え、客観試験による全科統合型卒業試験と Post-CC OSCE(臨床実習後の臨床実技試験)の結果を用います。

医学科を卒業した学生には医師国家試験受験資格が与えられます。

○看護学科のディプロマ・ポリシー

<教育理念と教育目的>

『患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療』という医学部開設の基本理念に基づき、教育目的を次のように定めています。医学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的としています。

さらに看護学科においては、学部の基本理念に基づき、看護・保健に関する高度の専門的知識と優れた技能を有する専門職者として指導的役割を担う人材を養成することを目的としています。

<育成する人材像>

学習の到達目標に示すような、将来的に地域のリーダーとして人の暮らしを支える看護を牽引するために必要な能力を有することを重視します。

<学習の到達目標>

1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力 (I群)

看護の対象となる人々の一生涯の暮らしと健康や病いの体験を暮らす人々の見方や感じ方で理解し、支援に活かすことができる

2. 倫理的能力と対話能力 (II群)

人の多様性や自律性を尊重し、共感性をもって看護の対象となる人々と対話し、支援に活かすことができる

3. 根拠に基づいて看護を実践する能力 (III群)

看護の対象となる人々とのかかわりのなかで人々の看護ニーズに気づき、看護の対象となる人々とその暮らしのバックグラウンドにある地域の特性や社会資源を含めて健康課題を把握し、最適な看護方法を計画して、根拠に基づいた看護を実践できる

4. 人の一生涯の暮らしを支える看護を実践する能力 (IV群)

看護の対象となる人々の地域での暮らしを常に見据え、人々の誕生から死に至るまでの健康

- と暮らしを連続的に捉え、その時々々の健康課題に対応した看護を実践できる
5. 人の暮らす地域性を看護に活かす能力（V群）
看護の対象となる人々が暮らす地域の特性や様々な社会資源を活かした、保健医療福祉チームの一員としての看護のあり方を自分の言葉で説明できる
 6. 不断に看護を学び続ける能力（VI群）
主体的な学びや科学的な看護の創造の面白さと大切さに気づき、変動する社会のニーズに対応できる看護職として自ら学び続け、支援に活かすことができる

<卒業認定・学位授与>

学部学科の教育目的に基づく教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ）

医学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/5_1_25-3med.pdf

看護学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/5-2_25-3nur.pdf

○医学科のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

本学の教育課程は医師として必要な教養と倫理観、将来どのような専門分野に進もうともその基盤となる知識と技能、コミュニケーション能力を身につけることを目標としています。

入学当初から1年間のカリキュラムに、特に重点を置いています。「医学基礎セミナー」では、大学で学ぶとはどういうことか、自学自習するとはどういうことかを、医学・医療に関わる題材を用いて、クラスメイトや教員とともに考えます。高校での未修得科目が専門教育の支障を来さないよう、専門基礎科目として「物理学」、「物理化学」、「化学・生物学」を必修としています。医学の基本となる解剖学や生理学等の医科学の基礎を少しでも早く身に付けるために、1年次の4月から「基礎医学展望」を受講します。この科目は高等学校での学習から医学専門教育への橋渡しを行うものです。1年次（通年）には、城北キャンパスで他学部の学生とともに学ぶクラスもあり、専門分野にとらわれない幅広い教養を身につけることができます。また本学の特徴として、1年次5月から1年間継続的に研究室配属を行い、先端医科学の研究を体験・実践し、更に卒業要件とはしない「準正課科目」として2年次から4年次まで研究室配属実習を選択的に受講でき、学生の研究マインドを育てます。

1年次後学期から基礎医学系科目を広く学び、3年生では臨床医学の基礎を、4年次では応用的な臨床医学各科目を学びます。4年次の臨床実習開始前に患者と触れ合う機会のある講義・実習を複数取り入れることや、基礎科目と臨床科目の統合（垂直統合）、「症候学講義」や各科オムニバス形式の「医療と法律」等、水平統合を意識したカリキュラムとなっています。教養教育（全学共通教育科目）を1年次のみならず、5年次「人間と医療」等として実施し、且つ医師養成の観点から全人的医療の基本概念を理解し、倫理観の育成を図る行動科学・人間関係教育を行います。医学生共用試験（CBTとOSCE）を経て、4年次の1月から大学附属病院の全ての臨床科での導入型臨床実習が始まります。また県内各所の病院に設置された愛媛大学サテライトセンターでも臨床実習を行い、地域医療の最先端の現場を経験します。5年次の冬から6年次の夏までは、それぞれの学生が附属病院の臨床科や県内各地の医療機関で、さらに高度な選択型臨床実習を行います。臨床実習の内容は、連携病院の責任者などステークホルダーの意見を反映させています。

医学科の必修科目を履修し医学部規則に定められた単位を取得することで、大学憲章に掲げた5つの能力を修得できるようにカリキュラムが編成されています。

<教育方法>

医学科では、国際水準（グローバル・スタンダード）に対応したカリキュラムを構築するために、平成28年度の新入生から新しいカリキュラムに移行しました。新カリキュラムでは、臨床実習を4年次の1月から行い、実習内容を量的にも質的にも向上させました。臨床実習は導入型（見学型）から選択型（診療参加型）実習へのシームレスな教育により、チームの一員としての医師の役割と技能を実践的に学びます。平成27年度から、専門教育の授業時間を1コマ90分から60分に短縮して学生の集中力を高めると同時に、日々刻々進歩している医学知識の増大に対応してい

ます。カリキュラムには6年間を通して様々な実習授業が組み込まれ、PBL-チュートリアルではグループ単位での能動的な学習が求められています。さらに、チーム医療教育のため、1年次からグループ学習や看護学科等との合同授業を開講し、協働の重要性を学びます。

<成績評価と進級・卒業判定>

すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験・口頭試問・レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。形成的評価の側面をもつ再試験を専門科目の殆どで実施しています。試験では知識の評価に重点が置かれがちですが、レポートや臨床実習の記録等により態度・技能の評価を行っています。また、臨床実習の一部科目ではポートフォリオによる自己達成度を評価しています。学年毎の進級には一定の条件があります。これに加えて、全ての学生は4年次には全国統一の学力・臨床技能試験である医学生共用試験（CBT と OSCE）を受け、合格後は4年次1月から始まる臨床実習に参加します。

6年次には、客観試験による全臨床科統合型卒業試験と Post-CC OSCE（臨床実習後の臨床実技試験）により、知識・態度・技能を総合的に評価して卒業判定を行います。卒業判定では特に、臨床実習期間中の十分な patient-contact によって身についた基本的な臨床手技の能力、ならびに患者の状態を的確に把握して治療方針を検討し、その結果を他者に伝えるための能力が、卒後臨床研修を開始できるレベルであることを重視します。臨床手技を低学年から安全に学ぶため、1年次から4年次に様々なシミュレータを用いた実習を導入しています。

<カリキュラムの評価>

統合型卒業試験を含む全ての授業の成績、医学生共用試験や国家試験の成績、進級率、学生による授業評価、研修先の病院等からの評価などのデータを蓄積し、医学教育のグローバル・スタンダードに基づいてカリキュラムの改善を継続的にを行います。

○看護学科のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を養成するために、共通教育科目と専門教育科目を体系的に編成します。

1) 共通教育科目

1年次の低学年を中心に編成します。

共通教育科目は、高校から大学への導入のための初年次科目、大学における学びの全般を支え専門教育の基盤となる基礎科目、豊かな人間性を養う教養科目から編成され、看護学の基盤となる知識やスキルと密接に関連しています。

2) 専門教育科目

1年次から4年次までの4年間に編成します。

専門教育科目は、暮らしを支える看護のスタート科目、日常生活を整える支援科目、健康課題別の暮らしの支援科目、暮らしを支える看護の深める科目、保健師科目、養護教諭科目から構成されます。

看護実践に必要な看護学の知識やスキルを学び、具体的には以下の通りです。

- ・1年次に編成される暮らしを支える看護のスタート科目では、地域で暮らす人と暮らしの場の訪問体験や、地域での人の暮らしを支える看護の見学体験をもとに、看護の基礎的知識を学びます。
- ・1年次後半から2年次後半に編成される日常生活を整える支援科目では、1年次中期までの学びに積み上げて、看護の基礎的知識・技術を学び、それをもとに日々の生活に他者の手助けを必要とする人への日常生活ケアを体験してこれまでの学びをまとめます。
- ・2年次後半から3年次に編成される健康課題別の暮らしの支援科目では、2年次前半までの学びに積み上げて、様々な健康課題をもつ人の特徴と看護を学び、それをもとに様々な健康課題を抱える人への地域での暮らしの支援を体験してこれまでの学びをまとめます。
- ・4年次に編成される暮らしを支える看護を深める科目では、3年次までの学びに積み上げて、人の暮らし地域において様々な健康課題をもつ人の支援を体験し、地域での人の暮らしを支える看護に関する考えを深めます。
- ・2年次終了時には教員免許状（養護教諭）取得の選択、2年次前学期終了時には保健師課程の選択を決定します。

<教育方法>

1年次の早期から、4年間、断続的に、看護の対象となる人々の暮らしやその看護を体験し、その体験を通して学べる教育方法にします。また、学生の自立的・自律的な学びを支援するために、講義形式の授業だけでなく、地域社会の様々な世代の人々と直接、交流する体験学習、学生同士の話し合いや学びあい、臨床状況を模擬的に再現した状況下での演習などを多く取り入れます。また、eラーニングなど時間外学修を支援するツールも活用します。学生の履修を支援するために、授業概要を示すシラバスに加え、科目間の関係や順序を履修系統図で示します。

<成績評価と進級・卒業判定>

すべての授業において明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行います。また、今後の学修につなげるために、定期的に、卒業認定・学位授与の方針に示された能力の修得の自己評価や成績評価をもとに、これまでに何を学び、身に付けることができたのかを学生担当教員とともに振り返ります。2年次終了時には、各科目の成績評価をもとに、3年次の実習の履修能力を確認します。

<カリキュラムの評価>

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則して、学修成果等を測定・評価し、その結果に基づいて教育プログラムを検証し、改善につなげていきます。

検証は、別に定めるカリキュラム・アセスメント・チェックリストに則って実施します。具体的には、在学生へのアンケートや聞き取り調査、卒業生へのアンケート、卒業生の就職先へのアンケートなどを実施して在学生や卒業生、第三者の意見を参考にしながら、GPA（成績平均値）や単位修得状況などをもとに、教育課程編成・実施の方針で示された教育内容が適切に実行されているか、卒業認定・学位授与方針で示された能力が着実に身につくカリキュラムや教育内容が編成されているか、身に付けた資質・能力が就職先や進学先で役立っているかを検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

医学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/5_1_25-3med.pdf

看護学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/5-2_25-3nur.pdf

○医学科のアドミッション・ポリシー

愛媛大学医学部医学科では、愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）を備え、医学部の基本理念である「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」を実践できる医療人の育成を目指しています。そのため、基本的な知識・技能・思考力・判断力・表現力と人間の尊厳を重んじる豊かな人間性を備えた入学に対して、幅広い教養、生命に対する深い慈しみに裏打ちされた生命倫理、そして生命の尊厳に基づいた医学教育を行っています。加えて、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけている入学者が、進歩する医学・医療を生涯にわたり学習し続ける能力を磨くために、大学や学部を超えたグループによる課題探究型の教育にも力を入れています。さらに、地域医療を含む日本の保健・医療・福祉だけでなく、研究や行政において国際的に貢献できる人材の育成を目指し、一般選抜に加えて、学校推薦型選抜、総合型選抜や編入学などの様々な選抜方法を採用しています。そこで、医学科では次のような資質を有する学生を求めます。

（知識・技能・思考力・判断力・表現力）

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
 - 1-1) [全ての入試枠] 高等学校等で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の広範な知識を有している。
 - 1-2) [一般選抜] 高等学校等で履修する数学および理科（物理、化学）について深く理解している。また、和文や英文を読んでその内容を理解し、日本語や英語で適確に表現することができる。
 - 1-3) [学校推薦型選抜Ⅱ・総合型選抜Ⅱ] 和文や英文の理解に加え、理科や数学の基礎的な知識を基に、その内容およびそれに関連した事項について、受験時までの学習や経験を踏まえつつ考察し、日本語や英語で適確に表現できる。
2. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。
（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
3. 人が好きで、生命に対する倫理観がしっかりしている。
4. 医学・医療に対する目的意識と関心が高く、この分野に貢献したいという意欲と情熱を持って

いる。

5. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。
6. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、多様な人々と協働して良好な関係を保つことができる。
7. [学校推薦型選抜ⅡB（地域特別枠推薦）] 幅広い総合的な診療能力を身につける意欲を持ち、愛媛県内の地域医療の担い手となる高い使命感と倫理感を持っている。
8. [総合型選抜Ⅱ] 研究医の不足や、地域・診療科における臨床医の偏在など、医学・医療を取り巻く諸問題に強い関心を持ち、その是正に意欲を持って取り組み、愛媛県内の医学・医療の担い手となる高い使命感と倫理感を持っている。

<選考方法の趣旨>

【一般選抜 前期日程】

医師を目指すためには、卒業までに多くの専門知識や技術を身につけなければなりません。そのためにも、大学入学までに培われるべき基礎学力が必要です。

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの幅広い分野の基礎学力をみるために6教科8科目を課しています。

個別学力検査では、数学、理科（物理・化学）と総合問題の筆記試験を行い、これらの科目の基礎知識や応用力を試します。

また、面接試験では、医師を目指すという目的意識や情熱が強いこと、緊張した状況下でも落ち着いて、他者に自分の考えを自分の言葉で伝えられるコミュニケーション能力を有していることを確認します。さらに、多様な人々と協働し生涯学び続けることが求められる医療人としての適性、医師の社会的責任について自分なりの考えを持っていることや、医療や医学について社会問題となっている事柄についての興味や関心を確認します。

【学校推薦型選抜ⅡA（学校推薦）】

医師を目指すためには、卒業までに多くの専門知識や技術を身につけなければなりません。そのためにも、大学入学までに培われるべき基礎学力が必要です。

筆記試験では、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、総合問題試験を課しています。テーマは医学・医療に関係する内容に限らず、数学・物理・化学・生物・地学を含む自然科学全般やその時々々の社会問題から広く出題します。

また、面接試験では、医師を目指すという目的意識や情熱が強いこと、緊張した状況下でも落ち着いて、他者に自分の考えを自分の言葉で伝えられるコミュニケーション能力を有していることを確認します。さらに、多様な人々と協働し生涯学び続けることが求められる医療人としての適性、医師の社会的責任について自分なりの考えを持っていることや、医療や医学について社会問題となっている事柄についての興味や関心を確認します。

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの幅広い分野の基礎学力をみるために6教科8科目を課しています。

【学校推薦型選抜ⅡB（地域特別枠推薦）】

医師を目指すためには、卒業までに多くの専門知識や技術を身につけなければなりません。そのためにも、大学入学までに培われるべき基礎学力が必要です。

筆記試験では、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、総合問題試験を課しています。テーマは医学・医療に関係する内容に限らず、数学・物理・化学・生物・地学を含む自然科学全般やその時々々の社会問題など広い範囲から出題します。

また、面接試験では、医師を目指すという目的意識や情熱が強いこと、緊張した状況下でも落ち着いて、他者に自分の考えを自分の言葉で伝えられるコミュニケーション能力を有していることを確認します。さらに、多様な人々と協働し生涯学び続けることが求められる医療人としての適性、医師の社会的責任について自分なりの考えを持っていることや、医療や医学について社会問題となっている事柄についての興味や関心を確認します。加えて、将来の愛媛県の地域医療を支える人材として、幅広い総合的な診療能力を身につけ、医学・医療の発展に貢献するという自覚を、面接試験によって評価します。

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの幅広い分野の基礎学力をみるために6教科8科目を課しています。

なお、本選抜では、大学が行う上記の試験（筆記、面接）とは別に、愛媛県担当者による面接試験があります。そこでは、入学後に愛媛県が提供する奨学金の奨学生となる意思を確認します。

（この奨学金制度では、県が指定する医療機関で卒業後に一定期間勤務すると奨学金の返還が免

除されます。)

【総合型選抜Ⅱ】

医師を目指すためには、卒業までに多くの専門知識や技術を身につけなければなりません。そのためにも、大学入学までに培われるべき基礎学力が必要です。

筆記試験では、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、数学・物理・化学・生物・地学を含む総合問題試験を課しています。テーマは医学・医療に関係する内容に限らず、自然科学全般やその時々の社会問題など広い範囲から出題します。

また、面接試験では、医師を目指すという目的意識や情熱が強いこと、緊張した状況下でも落ち着いて、他者に自分の考えを自分の言葉で伝えられるコミュニケーション能力を有していることを確認します。さらに、多様な人々と協働し生涯学び続けることが求められる医療人としての適性、医師の社会的責任について自分なりの考えを持っていることや、医療や医学について社会問題となっている事柄についての興味や関心を確認します。加えて、将来の愛媛県の医学・医療を支える人材として、研究医の不足や、地域・診療科における臨床医の偏在など、医学・医療を取り巻く諸問題に強い関心を持っていることや、その是正への意欲と医学・医療の発展に貢献するという自覚を評価します。

大学入学共通テストでは、入学後の修学に必要な高等学校レベルでの幅広い分野の基礎学力をみるために6教科8科目を課しています。

○看護学科のアドミッション・ポリシー

愛媛大学医学部看護学科では、愛媛大学学生として期待される能力(愛大学生コンピテンシー)を備え、医学部の基本理念である「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」を実践できる医療人の育成を目指しています。そのため、基本的な知識・技能・思考力・判断力・表現力と人間の尊厳を重んじる豊かな人間性を備えた入学者に対して、幅広い教養、生命に対する深い慈しみに裏打ちされた生命倫理、そして生命の尊厳に基づいた看護学教育を行っています。加えて、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけている入学者が、進歩する看護学・医療を生涯にわたり学習し続ける能力を磨くために、学科内あるいは学部や大学を超えたグループによるチーム基盤型学習の教育にも力を入れています。さらに、地域医療を含む日本の保健・医療・福祉だけでなく、研究や行政において国際的に貢献できる人材の育成を目指し、一般選抜に加えて、総合型選抜(地域特別枠、社会人枠)、学校推薦型選抜、編入学などの様々な選抜方法を採用しています。そこで、看護学科ではカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)およびディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に定める教育を受けるために最低限必要な、次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・技能)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

[一般選抜]

1-1) 高等学校等で履修する国語、地理歴史または公民、数学、理科、外国語、情報の広範囲な知識を有している。

1-2) 長文の和文と英文の文章を理解し、その内容およびそれに関連した事項について、受験時までの学習や経験を踏まえつつ自らの考えを日本語で適確に表現できる。

[総合型選抜ⅠA(地域特別枠)] [総合型選抜ⅠB(社会人枠)]

1-1) 長文の和文と英文の文章を理解し、その内容およびそれに関連した事項について、受験時までの学習や経験を踏まえつつ自らの考えを日本語で適確に表現できる。

[学校推薦型選抜Ⅱ]

1-1) 高等学校等で履修する国語、外国語の広範囲な知識を有している。

1-2) 長文の和文と英文の文章を理解し、その内容およびそれに関連した事項について、受験時までの学習や経験を踏まえつつ自らの考えを日本語で適確に表現できる。

2. 高等学校等までの学修や生活体験を通して、人と人の暮らしに関する知識を獲得している。(思考力・判断力・表現力)
3. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。
4. 物事の中から問題を見出し、解決方法を探り、問題解決に向けて行動することができる。
5. 情報をもとに自分の考えを形成し、その考えを伝え合って多様な考えを理解し、考えを深めることができる。
6. 物事をさまざまな視点からとらえ、新しい意味や価値を生み出すことができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

7. 人が好きで、人、人の暮らしや命、看護に高い関心がある。
8. 将来、看護職等として医療に貢献したい目的意識と情熱がある。
【総合型選抜ⅠA（地域特別枠）】
 - 8-1) 中山間地域や離島などの地域医療に強い関心をもち、将来、愛媛県内の地域医療のリーダーとして貢献することに高い使命感を持っている。
- 【総合型選抜ⅠB（社会人枠）】
 - 8-1) 看護に強い関心をもち、将来、社会人として人の暮らしや医療に貢献することに高い使命感を持っている。
9. 周囲の人と良好な関係を自主的に形成していくことができる。
10. 多様な人々の考え方や価値観を尊重し、互いのよさを生かして協働できる。

<選考方法の趣旨>

【一般選抜 前期日程】

将来的に、地域のリーダーとして、人の一生の暮らしを支える看護を牽引する人材の育成を目指し、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する思考力・判断力・表現力等の能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

高等学校レベルでの広い範囲の基礎学力の評価のために、大学入学共通テストでは、6教科6科目を課しています。

個別学力検査では、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、和文と英文による小論文試験（解答は和文による）を課しています。テーマは医療に関係する内容に限らず、自然科学全般やその時々々の社会問題など、人や人の暮らしに関する広い範囲から出題します。

個人面接では、出願書類（調査書）を含めて評価します。また、アドミッション・ポリシーに基づき、高等学校等や学校外での様々な活動について質問し、看護の専門職を目指すという強い目的意識や情熱、社会性や協調性、思考力や表現力を有していることを確認します。入学後の学習では、実際に地域で暮らす人々や、病院・施設・在宅で療養している多くの人々と関わることからの学びが重要になります。そのため、人との関わりが好きで、人や人の暮らしに関する関心や知識があることを確認します。

【学校推薦型選抜Ⅱ（学校推薦）】

将来的に、地域のリーダーとして、人の一生の暮らしを支える看護を牽引する人材の育成を目指し、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する思考力・判断力・表現力等の能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

高等学校レベルの基礎学力の評価のために、大学入学共通テストでは、2教科2科目を課しています。

個別学力検査では、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、和文と英文による小論文試験（解答は和文による）を課しています。

個人面接では、出願書類（推薦書、調査書、活動報告書）を含めて評価します。また、アドミッション・ポリシーに基づき、高等学校等や学校外での様々な活動について質問し、看護の専門職を目指すという強い目的意識や情熱社会性や協調性、思考力や表現力を有していることを確認します。

入学後の学習では、実際に地域で暮らす人々や、病院・施設・在宅で療養している多くの人々と関わることからの学びが重要になります。そのため、人との関わりが好きで、人や人の暮らしに関する関心や知識があることを確認します。

【総合型選抜ⅠA（地域特別枠）】

将来的に、地域のリーダーとして、人の一生の暮らしを支える看護を牽引する人材の育成を目指し、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する思考力・判断力・表現力等の能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

個別学力検査では、高等学校レベルの基礎学力の評価のために、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、和文と英文による小論文試験（解答は和文による）を課しています。また、中山間地域や離島などに住む人や人の暮らし及び看護に関する関心、知識、思考力、表現力等を総合的に

みるために、課題レポート及びプレゼンテーションを課しています。

個人面接では、出願書類（志望理由書、調査書、活動報告書）を含めて評価します。また、アドミッション・ポリシーに基づき、高等学校等や学校外での様々な活動について質問し、卒業後は愛媛県の中山間地域や離島などの地域医療に貢献できる看護の専門職を目指すという強い目的意識や情熱、社会性や協調性、思考力や表現力を有していることを確認します。入学後の学習では、実際に地域で暮らす人々や、病院・施設・在宅で療養している多くの人々と関ることからの学びが重要になります。そのため、人との関わりが好きで、中山間地域や離島などに住む人や人の暮らしに関する関心や知識があることを確認します。

【総合型選抜IB（社会人枠）】

これまでに修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する思考力・判断力・表現力等の能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

個別学力検査では、高等学校レベルの基礎学力の評価のために、文章の内容や意味を正しく捉え、内容を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現できる能力を持った学生を選抜するために、和文と英文による小論文試験（解答は和文による）を課しています。また、人や人の暮らし及び看護に関する関心、知識、思考力、表現力等を総合的にみるために、課題レポート及びプレゼンテーションを課しています。

個人面接では、出願書類（志望理由書、調査書、活動報告書）を含めて評価します。また、アドミッション・ポリシーに基づき、これまでの生活や職務上の体験について質問し、社会人として人の暮らしや医療への貢献を目指すという強い目的意識や情熱、社会性や協調性、思考力や表現力を有していることを確認します。入学後の学習では、実際に地域で暮らす人々や、病院・施設・在宅で療養している多くの人々と関ることからの学びが重要になります。そのため、人との関わりが好きで、人や人の暮らしに関する関心や知識があることを確認します。

なお、令和8年度から、募集人員10人の総合型選抜を開始する。

学部等名 工学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ＞愛媛大学規則集

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/>

○工学部規則（第2条）

本学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、幅広い教養及び工学に関連する基礎知識に基づく十分な学問的知識を修得させ、豊かな人間性と自立した創造力に富む専門的職業人及び技術者となる人材を養成するとともに、深く工学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/6_1_25-3eng.pdf

○工学部のディプロマ・ポリシー

<教育理念と教育目的>

愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、工学部では幅広い教養及び工学に関連する基礎知識に基づいた学問的知識を修得させることにより、豊かな人間性と自立した創造力に富む専門的職業人及び技術者となる人材を養成することを目的としています。また、深く工学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的としています。

<育成する人材像>

社会や自然との係わりの中に自らを位置づけ、グローバルな視野からの多面的な判断によって工学・科学技術を主体的、自律的に行使することができる人材を育成します。また、科学とこれを基礎とする工学分野の基礎知識を総合的に活用して、「ものづくり」や「システムづくり」に創造的かつ実践的能力を発揮し、かつ変化する産業構造に柔軟に対応し、社会に貢献することができる人材を育成します。

<学習の到達目標>

（知識・理解）

1. 幅広い教養と工学の基本的な知識を身につけている。
2. 工学の一専門分野について基礎的知識をもち、ものづくりやシステムづくりに活用できる。
(思考・判断)
3. 科学や技術が社会におよぼす影響を理解し、国内外の視点から自立のかつ論理的な判断を行うことができる。
(興味・関心・意欲)
4. 課題を解決するために必要となる工学的知識を自ら修得するために学習を継続する能力をもつ。
(態度)
5. 自己の専門分野だけでなく教養および多様な工学的知識を総合的に活用しながら、現代社会が直面するさまざまな課題に柔軟に対応できる。
6. 課題を他者と協働して解決できる。
(技能・表現)
7. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力をもつ。

<卒業認定・学位授与>

工学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ）

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/6_1_25-3eng.pdf

○工学部工学科のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

工学部工学科では、まず基礎をしっかりと学習したのち、専門知識を身につけるための深い学びと実践力の養成へと繋がるよう、カリキュラムが組まれています。カリキュラムは、全学共通教育科目、工学共通基礎科目、専門入門科目、専門基礎科目、専門応用科目から構成されています。年次進行とともに基礎から発展・応用へと段階を踏んで学べるように授業科目が配置されています。

全学共通教育科目では、1年次の初年次科目および基礎科目で、「数学」、「英語」など、大学での学びを進めるための基礎的な知識・技能を学習します。また、専門分野の基礎を学んだあと、2年次と3年次前期で教養科目を履修することで、社会との関連を意識して、自己の学びを深めることができます。

工学共通基礎科目は工学科の学生全員が同じ内容の授業を受講します。1年次の工学共通基礎科目では、「物理基礎」や「化学基礎」、「基礎情報学」、「基礎安全学」などの科目で、工学系技術者・研究者を目指す学生が身につけなければならない知識・技能の基礎を学習します。また、「工学リテラシー」で、各教育コースの特徴や主な研究テーマ、さらに自然・生命・環境・エネルギー・社会・情報と科学技術の関わりについて学習します。1年次後期には、教育コースの入門的な科目でもある専門入門科目が開講されます。工学に関する様々な学問分野の科目群から学生が自由に複数の科目を選択することで、多方面の学問分野についてその学習内容の一端を知る機会が増えます。また、卒業後のキャリアパスを意識しつつ自己の学びを深め、実践的能力が培えるよう、「学部共通PBL」、「工学倫理・知財・キャリアリテラシー」を3年次に履修します。

専門基礎科目と専門応用科目は2年次以上で履修します。2年次からは、機械工学コース、知能システム学コース、電気電子工学コース、コンピュータ科学コース、応用情報工学コース、材料デザイン工学コース、化学・生命科学コース、社会基盤工学コース、社会デザインコースの9教育コースに分かれ、教育コースそれぞれに特徴ある授業科目を受講することにより、より専門性を深めた知識・技能の修得を目指します。各教育コースにおいて、4年次に学生は研究室に配属され卒業研究を行います。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識や技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。各教育コースにおいて、4年次に学生は研究室に配属され卒業研究として、各教育コースに関連した先端研究を体験・実習します。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識・技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。

以下に、各教育コースで開講される専門基礎・応用科目の特徴的な教育内容をまとめます。

・機械工学コース

機械工学に関する基礎的知識と機械に関連するものづくりや問題解決、コミュニケーション

に必要な学問的知識・実践的技能を修得させ、豊かな人間性と自立した創造力に富む機械技術者を育成するための教育を行います。2年では、機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を理解するための専門基礎科目を学びます。製図に関する複数の実習を行い、コンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次の応用系科目では、4大力学の応用科目、4大力学以外の機械工学を構成する種々の科目を受講します。講義で学んだ専門知識を、実験・実習を通じてより深く理解するために、機械工学実験を受講します。

・知能システム学コース

知能システム学に関する基礎的知識と知能システムに関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的技能を修得させ、豊かな人間性と自立した想像力に富む知能システム技術者を養成するための教育を行います。機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の基礎を学び、専門的な数学、力学である応用数学、応用力学の力をつけ、設計・製作に関する授業やコンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次では知能システム学に関する専門の応用系科目として、制御基礎理論、ロボット・生体工学、情報処理と機械系をつなぐシステム理論、メカトロ・人工知能工学などの最先端の授業を受講します。また、これらの講義で学んだ知識を、実験・実習を通じて理解するための実験科目が用意されています。

・電気電子工学コース

電気エネルギーに関わる技術から、信号処理や通信システムなどの情報技術、半導体などの材料技術にいたるまで、電気電子工学について豊かな教養を持ち実践的能力を身につけた技術者を育成するための教育を行います。2年次には、電気電子工学の基盤となる電気磁気学、電気回路、電子回路などの講義科目および実験科目を履修し、電気電子工学分野の基本的な機器の取扱を含む実験技術・安全衛生・科学倫理と実践的なスキルを涵養します。また、3年次には電気系や通信系、材料系などの科目も履修し、専門性をより高めます。4

年では、知的財産や工場管理などの科目を学ぶことで、卒業後の実務に向けた知識を深めます。

・コンピュータ科学コース

知能情報社会を構築するために必要な数理科学、コンピュータ科学および人工知能を含むデータサイエンスの知識・技術を修得し、課題解決のためにデータを分析し、その解決方法をコンピュータシステムとして実現できる高度情報処理技術者を育成するための教育を行います。コンピュータ科学の技術を習得するために、ハードウェアに関する基礎理論、ミドルウェアに関する基礎理論、ソフトウェアに関する基礎理論、プログラミング言語を学びます。人工知能を含むデータサイエンスの技術を習得するために、数学、数理科学、機械学習を学びます。

・応用情報工学コース

社会に存在する課題に挑み、その解決に向かって考え、自己の成長を持続的に行える実践的能力を備えた技術者の育成するための教育を行います。情報工学・通信工学の分野学習で基盤となる論理回路、プログラミング言語、オペレーションシステムなどを学びます。さらに、マーケティングやデザイン思考、サイバーセキュリティなどの講義やその他演習科目を履修することで、情報工学・通信工学に関する知識・知見をもとに、社会の直面する課題の解決に取り組む、実践的能力の涵養を図ります。

・材料デザイン工学コース

材料に関して、金属工学、無機材料工学、機械工学、電気・電子工学、物理学、化学などの物質に関連する学問分野を幅広く学び、新しい機能を持った材料を開発できる人材を育成するための教育を行います。2年次に材料物理化学・金属材料組織学・金属強度学などの材料学の基礎科目、力学・電磁気学・量子論などの物理科目や数学科目を学びます。そして、実験科目を通じて実際の自然現象と座学の知識を有機的に関連づけていきます。また、科学技術英語の受講から英語で科学技術を表現できる能力も身に付けます。3年次では誘電体材料学、光材料学、磁性材料学などの各種材料の専門的知識を学び、無機材料学や金属材料学を受講して材料学を総合的に学習します。そして、材料デザイン工学実験を受講して材料開発に必要な実験手法も学び、新しい材料を開発する知識・技術を習得します。

・化学・生命科学コース

化学や生命科学の知識を総合的に活用して、社会が抱える問題の解決策を提示できる人材を育成するための教育を行います。化学・生命科学分野における基礎から応用にわたる広い範囲の講義や実験から成る体系的なカリキュラムを用意しています。化学・生命科学コースに共通した基幹的な考え方や実験技術を身に付けるための応用科学実験 I-III と化学・生命科学演習の必修科目の他に、選択科目として基本的専門知識を身に付けるための科目群と身に付けた基本的な知識をさらに発展させるための科目群があり、学生個々の興味や将来設計に合わせて自主的・意欲的に授業を選択することができるようになっていきます。また、科学技術英語の受講から専門分野の情報・知識を英語で収集・理解する能力を高め、英語で研究・技術を表現できる能力の涵養を図ります。

・社会基盤工学コース

土木工学に係わる専門科目の習得により社会基盤整備、持続的な環境創造を担える人材の育成するための教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、構造力学、土質力学、水理学といった、三力と呼ばれる土木工学の根幹を成す分野の講義や、土木計画学、建設材料学、測量学、地球生態学といった土木工学のあるべき姿を理解する上で必須となる講義を受講します。3年次では、専門の応用系科目が設置されています。また、多くの実験・実習科目があり、これらの受講を通じて、講義で学んだ内容のより深い理解と定着を図ります。

・社会デザインコース

自然科学、社会科学を限定せず幅広い知識と能力を習得することにより持続可能な環境創造、豊かなまちづくり、国土デザインを担える人材を育成するための教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、構造力学、土質力学、水理学といった、三力と呼ばれる土木工学の根幹を成す分野の基礎的な講義や、土木計画学、建設材料学、地球生態学、社会資本の整備と運用、景観デザイン、公共ガバナンス論、社会心理学といった持続可能な環境創造、豊かなまちづくり・地域デザインを担うための基盤となる講義を受講します。3年次では、専門の応用系科目が設置されています。また、住民参加と合意形成といった、プロジェクトを遂行するために必須となる考えを学ぶ講義を受講します。

<教育方法と成績評価>

- ・ 講義、実験・実習、体験学習、ディスカッション・グループワーク、プレゼンテーションなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・ 科目間の関係と履修の流れをカリキュラムマップとしてわかりやすく示し、専門志向・キャリアパスに応じた履修計画をサポートします。
- ・ 授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限を設けています。
- ・ すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。
- ・ 卒業研究を履修するには、3年次後学期終了までに修得しなければならない単位数と授業科目が定められています。

<カリキュラムの評価（教育評価）>

各学期の終了時に授業アンケートを行い、個々の授業科目の改善に役立ちます。また、卒業予定学生アンケートを実施し、工学科・教育コースの教育が学生の成長にどう役立ったかを調べ、教育の改善につなげます。さらに、卒業生や卒業生が就職した企業関係者の方々の意見を聴取して、卒業認定・学位授与の方針で示された能力が確実に身につけているかを検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/6_1_25-3eng.pdf)

○工学部のアドミッション・ポリシー

工学部では、工学・技術の分野で技術者・研究者等として国内外で活躍できる人材の育成を目指します。そのため、工学部では次のような人物を求めます。

（知識・理解）

1. 本学科の専門分野を学ぶために必要な、高等学校卒業レベルの基礎学力を有している。

（思考・判断、技能・表現）

2. 物事を多面的に考察し、論理的にまとめ表現することができる。
3. 自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

(興味・関心・意欲、態度)

4. 工学の分野に興味を持ち、習得した知識・技術を地域社会あるいは国際社会に役立てたいと考えている。

(主体性・多様性・協働性)

5. 主体的に多様な経験を得ようとする意欲を有している。
6. 多様な他者と関わり、相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力を有している。

<選考方法の趣旨>

【一般選抜 前期日程 理型入試】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学及び理科(物理または化学)の基礎学力を評価し、調査書または活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 後期日程 理型入試】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学の基礎学力を評価し、調査書または活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 前期日程 文理型入試(社会デザインコース)】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科7科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学及び英語の基礎学力を評価し、調査書または活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 後期日程 文理型入試(社会デザインコース)】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の最大5教科6科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、面接により論理的思考能力を測り、調査書または活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 前期日程 デジタル情報人材育成特別プログラム】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学の基礎学力を評価し、調査書または活動調書によって、コンピュータ科学・応用情報工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 後期日程 デジタル情報人材育成特別プログラム】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、小論文により論理的思考能力を測り、調査書または活動調書によって、コンピュータ科学・応用情報工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(機械工学コース)

【学校推薦型選抜 I】

国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、職業科目の基礎的な学力を調査書により判断します。機械の設計で特に重要となる数学と物理の基礎学力を測るために口頭試問を課しています。また、「ものづくり」への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、推薦書・調査書および活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【学校推薦型選抜 II】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修した主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を有しているかをみるために、5教科7科目を課しています。また、「ものづくり」への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、推薦書・調査書および活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(知能システム学コース)

【学校推薦型選抜 I】

国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、職業科目の基礎的な学力を調査書により判断します。知能システムの設計で特に重要となる数学と物理の基礎学力を測るために口頭試問を課しています。また、「ものづくり」への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション

ン力をみるために面接を課しています。さらに、推薦書・調査書および活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修した主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を有しているかをみるために、5教科7科目を課しています。また、「ものづくり」への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、推薦書・調査書および活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(電気電子工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

高等学校の推薦書・調査書及び面接・活動報告書により、高等学校卒業程度の基礎学力、電気・電子・情報通信工学に対する勉学意欲・興味・関心、主体性、協働性等をみます。電気・電子・情報通信工学の分野を学ぶためには、数学、物理、英語等の基礎学力は特に重要です。面接では、これらの基礎学力をみます。また、目標を持って勉強することや自分の考えをわかりやすく表現することも重要ですので、これらについても面接で確認します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

高等学校の推薦書・調査書及び面接・活動報告書により、高等学校卒業程度の基礎学力、電気・電子・情報通信工学に対する勉学意欲・興味・関心、主体性、協働性等をみます。電気・電子・情報通信工学の分野を学ぶためには、数学、物理、英語等の基礎学力は特に重要です。そのため、大学入学共通テストにおいて数学、物理、情報の学力をみるとともに、面接においても、数学と英語の学力をみます。また、目標を持って勉強することや自分の考えをわかりやすく表現することも重要ですので、これらについても面接で確認します。

(コンピュータ科学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

目的意識、基礎的知識、自己表現力、情報工学分野への興味・学習意欲、主体性、協働性等を評価するために、推薦書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。基礎学力、論理的思考能力、コミュニケーション能力を評価するために、口頭試問を課しています。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、基礎学力・教養力を評価するために、6教科8科目を課しています。目的意識、基礎的知識、自己表現力、情報工学分野への興味、学習意欲、主体性、協働性等を評価するために、推薦書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。

(応用情報工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、基礎学力・教養力を評価するために、6教科8科目を課しています。目的意識、基礎的知識、自己表現力、情報工学分野への興味、学習意欲、主体性、協働性等を評価するために、推薦書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。

(材料デザイン工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

面接では、目的意識、勉学意欲、基礎的知識および自己表現力などについて総合的に評価します。また、口頭試問を設け、材料を学ぶ上で特に重要となる理科・数学に関する基礎学力もみます。推薦書・調査書および活動報告書では、「知識・理解」、「思考・判断、技能・表現」、「興味・関心・意欲、態度」および「主体性・多様性・協働性」について評価します。推薦書・調査書および活動報告書は面接における参考資料とします。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校レベルの広範囲な基礎学力をみるために、6教科8科目を課しています。面接では、目的意識、勉学意欲、基礎的知識および自己表現力などについて総合的に評価します。推薦書・調査書および活動報告書では、「知識・理解」、「思考・判断、技能・表現」、「興味・関心・意欲、態度」および「主体性・多様性・協働性」について評価します。推薦書・調査書および活動報告書は面接における参考資料とします。

(化学・生命科学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

推薦書・調査書・活動報告書によって、高等学校卒業程度の英語、数学、理科、情報、国語、地理歴史、公民の基礎学力を評価します。面接では、口頭試問によって化学・生命科学を学ぶ上で特に重要である化学に関する基礎学力を評価します。また、化学技術や生命科学に対する興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校レベルの広範囲な基礎学力をみるために、6教科8科目を課しています。推薦書・調査書・活動報告書および面接によって、化学技術や生命科学に対する興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(社会基盤工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

在籍校長の推薦書、調査書、活動報告書、面接(口頭試問を含む)により入学後に重点的に履修する分野・領域の修学に関する知識・理解、思考力・判断力・表現力の素地、興味・関心・意欲、態度、リーダーとしての主体性・多様性・協働性などの能力を評価します。

(社会デザインコース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

在籍校長の推薦書、調査書、活動報告書、面接(口頭試問を含む)により入学後に重点的に履修する分野・領域の修学に関する知識・理解、思考力・判断力・表現力の素地、興味・関心・意欲、態度、リーダーとしての主体性・多様性・協働性などの能力を評価します。

(デジタル情報人材育成特別プログラム)

【総合型選抜Ⅱ】

大学入学共通テスト、志望理由書、調査書、活動報告書、面接により入学後の修学全般に必須な基礎学力、入学後に重点的に履修する領域の修学に関する知識・理解、思考力・判断力・表現力の素地、興味・関心・意欲、態度、リーダーとしての主体性・多様性・協働性などの能力を評価します。

なお、学校推薦型、総合選抜型の募集人員を拡大する。

94人(令和7年度入試)→121人(令和8年度入試)

学部等名 農学部

教育研究上の目的(公表方法:大学ホームページ>愛媛大学規則集

<https://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/>)

○農学部規則(第2条)

学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、農学領域における様々な研究及びそれらの成果を基に、食料、生命、環境に関する専門的知識・技術を学生に修得させ、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる専門職業人や技術者を養成することによって、地域社会や国際社会における産業の発展と文化の進展に貢献することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/7_1_25_3-policy-agr.pdf)

○農学部のディプロマ・ポリシー

<教育理念と教育目的>

農学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する専門知識・技術を修得させ、地域的な視点と国際的な視野から食料、生命、環境に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育理念とします。また、農学領域における様々な研究及びそれらの成果を基に、食料、生命、環境に関する専門的知識・技術を学生に修得させ、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる専門職業人や技術者を養成することによって、地域社会や国際社会における産業の発展と文化の進展に貢献することを目的としています。

<育成する人材像>

愛媛大学の基本理念に基づいて、「学生中心の大学」として学生の多様な志向性を尊重した農学教育を提供することにより、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。

<学習の到達目標>

(知識・技能・理解)

生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関するいずれかの専門知識と技術を身に付けている。

(思考・判断)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関連する諸課題の原因を論理的に説明でき、解決策を見出すことができる。

(興味・関心・意欲)

上記の諸課題への関心と身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもち、倫理性をもって、継続的に課題解決のための行動をとることができる。

(表現)

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有している。

(主体性・協働性)

主体性をもって多様な人々と協力することにより、上記諸課題の解決に取り組むことができる。

<卒業認定・学位授与>

農学部規則に定められた単位数を修得した学生に対して、卒業を認定し学士（農学）の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/7_1_25_3-policy-agr.pdf)

○農学部のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

農学部では、基礎となる学習から専門知識と技術の修得までを段階的に学べるカリキュラムを編成しています。本カリキュラムは、全学共通教育科目、学部共通科目、学科共通科目及びコース専門科目から構成されています。1年次は、全学共通教育科目に加え、農学を構成する食料、生命、環境に関する広範で俯瞰的な知識と技術を修得するための学部共通科目、各学科の基礎知識を修得するための学科共通科目を開講しています。2年次よりコースに所属し、専門知識と技術を修得するためのコース専門科目を開講しています。さらに、卒業論文の開始時期を3年次とし、修得した専門知識や技術に基づいて卒業論文に取り組むことで論理的思考と課題解決能力、さらに未来を創造するデザイン能力を身に付けます。

<教育方法と成績評価>

講義形式の授業だけでなく、実験・実習等のアクティブ・ラーニングなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。また、授業時間外の学習を含む十分な学習時間を確保できるように履修登録制限（CAP 制）を設けるとともに、eラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。

すべての授業において、客観的な評価基準に基づき、筆記試験、レポートなどにより厳格な成績評価を実施します。

<カリキュラムの評価>

授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、農学部の学修到達目標の達成状況について検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/02/7_1_25_3-policy-agr.pdf)

○農学部のアドミッション・ポリシー

農学部は、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育理念としています。この教育理念に基づき、地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題の解決に熱意をもち、主体性と多様な能力をもった学生を求めます。そのため、一般選抜に加えて、学校推薦型選抜や総合型選抜などの様々な入試方法も採用しています。

そこで、農学部は次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・技能・理解)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
2. 次のいずれかに該当する。

(1) [一般選抜、総合型選抜Ⅱ]

高等学校等で履修する6教科(国語、数学、理科、地理歴史・公民、外国語、情報)の基礎的な知識・技能を有している。

(2) [学校推薦型選抜ⅠA]

高等学校等で履修する国語、英語、理科・数学系の基礎的な知識・技能を有している。

(3) [学校推薦型選抜ⅠB]

高等学校等で履修する国語、英語、理科・数学系の基礎的な知識・技能を有し、農林水産業、工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有しているか、高等学校等で選択履修した教科・科目について実践的・体験的学習から得られた知識・技術を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題に関心をもち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもっている。

(表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

(主体性・協働性)

問題解決のために、主体性をもって多様な人々と協力できる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：愛媛大学概要（冊子及び大学ホームページ）

<https://www.ehime-u.ac.jp/ebook/outline2025>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
法文学部	—	32人	23人	16人	1人	1人	73人
教育学部	—	50人	22人	9人			81人
社会共創学部	—	17人	14人	2人	8人		41人
理学部	—	(22人)	(18人)	(2人)	(9人)		(51人)
医学部	—	(55人)	(36人)	(16人)	(69人)	(1人)	(177人)
工学部	—	(42人)	(31人)	(9人)	(15人)	(1人)	(98人)
農学部	—	(25人)	(34人)		(9人)		(68人)
大学院	—	146人	121人	29人	102人	2人	400人
附属病院	—	4人	22人	24人	131人		181人
その他	—	51人	52人	12人	30人		145人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—		401人					401人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページ 教育研究者要覧 https://researchers.office.ehime-u.ac.jp/html/home_ja.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、教育・学生支援機構教育企画室が中心となって、全学的に一体感のある教育改革を進めています。教育企画室は、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）に20年間（平成22年度～令和11年度）認定されています。また、本学は、四国36高等教育機関が加盟する「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）の代表校を務めています。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
b.								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法文学部(昼)	275人	287人	104.4%	1,120人	1,181人	105.4%	10人	7人
法文学部(夜)	90人	99人	110.0%	400人	457人	114.3%	20人	17人
教育学部	160人	169人	105.6%	640人	687人	107.3%		
社会共創学部	180人	194人	107.8%	720人	779人	108.2%		
理学部	225人	242人	107.6%	900人	1,019人	113.2%		
医学部	170人	172人	101.2%	945人	953人	100.8%	15人	5人
工学部	530人	551人	104.0%	2,080人	2,263人	108.8%	10人	14人
農学部	170人	181人	106.5%	700人	770人	110.0%	10人	10人
合計	1,800人	1,895人	105.3%	7,505人	8,109人	108.0%	65人	53人

(備考) 令和7年5月1日現在

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法文学部(昼)	284人 (100%)	7人 (2.5%)	259人 (91.2%)	18人 (6.3%)
法文学部(夜)	104人 (100%)	1人 (0.9%)	92人 (88.5%)	11人 (10.6%)
教育学部	172人 (100%)	26人 (15.1%)	140人 (81.4%)	6人 (3.5%)
社会共創学部	172人 (100%)	10人 (5.8%)	155人 (90.1%)	7人 (4.1%)
理学部	218人 (100%)	96人 (44.0%)	107人 (49.1%)	15人 (6.9%)
医学部	178人 (100%)	4人 (2.3%)	162人 (91.0%)	12人 (6.7%)
工学部	465人 (100%)	218人 (46.9%)	243人 (52.2%)	4人 (0.9%)
農学部	183人 (100%)	79人 (43.2%)	98人 (53.5%)	6人 (3.3%)
合計	1,776人 (100%)	441人 (24.8%)	1,256人 (70.7%)	79人 (4.5%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) ※令和6年度実績

○主な進学先 : 愛媛大学大学院、大阪大学大学院、岡山大学大学院、神戸大学大学院、九州大学大学院、筑波大学大学院、東京大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、広島大学大学院、北海道大学大学院、名古屋大学大学院 他

○主な就職先 :

法文学部
 (民間) 日本食研ホールディングス、福助工業、太陽石油、三浦工業、住友電装、日本電気、新来島どっく、マツダ、四国電力、NPシステム開発、いよぎんコンピュータサービス、愛媛CATV、南海放送、伊予鉄グループ、ANA福岡空港、四国旅客鉄道、ニトリ、レデイ薬局、伊予鉄高島屋、イオンリテール、愛媛銀行、伊予銀行、広島銀行、四国銀行、西京銀行、三井住友信託銀行、日本政策金融公庫、かんぽ生命保険、東京海上日動火災保険、三井住友ファイナンス&リース、東京商工リサーチ、松山総合開発、松山赤十字病院、国立病院機構中国四国グループ、高齢・障害・求職者雇用支援機構、日本年金機構、愛媛大学 他
 (公務員) 高松国税局、愛媛労働局、広島国税局、広島地方裁判所、広島労働局、四国総合通信局、大阪法務局、中国地方整備局、法務省、愛媛県、愛媛県(警察)、伊予市、宇和島市、岡山県、広島県、広島県(警察)、香川県、高知県、今治市、松山市、新居浜市、島根県、東温市、東京消防庁、徳島県、福岡市、兵庫県 他
 (教員) 中学校教員、高等学校教員

教育学部
 (民間) セキ、三浦工業、スズキ、NTTデータ四国、愛媛銀行、アフラック生命保険 他
 (公務員) 高松市(保育士)、松山市(保育士)、愛媛県(学校事務)、広島県(警察) 他
 (教員) 幼稚園教員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員 他

社会共創学部
 (民間) 住友林業、帝人、セキ、大塚製薬工場、ユニ・チャーム、太陽石油、三浦工業、キヤノン、

四国電力、中国電力、エス・ピー・シー、中国新聞社、テレビせとうち、東日本旅客鉄道、DCMホールディングス、愛媛銀行、伊予銀行、広島銀行、三井住友海上火災保険、西日本高速道路、本州四国連絡高速道路 他

(公務員) 高知労働局、四国経済産業局、大阪国税局、愛媛県、広島市、山口県、松山市、島根県、兵庫県 他

理学部

(民間) 日本食研ホールディングス、神鋼鋼線工業、ヒカリ、出雲村田製作所、キヤノン、象印マホービン、新来島どつく、大島造船所、マツダ、いよぎんコンピュータサービス、両備システムズ、NECプラットフォームズ、三菱電機インフォメーションシステムズ、三菱電機ソフトウェア、日本システム技術、日本電気航空宇宙システム、伊予銀行、百十四銀行、日本総合研究所、宇宙技術開発、大日本ダイヤコンサルタント、非破壊検査、四国水族館開発、オオノ開発、愛媛大学、高知大学 他

(公務員) 愛媛労働局、岡山労働局、関東総合通信局、愛媛県(化学)、高知市、宝塚市、松山市 他

(教員) 中学校教員、高等学校教員

医学部

医学科卒業生は、本学医学部附属病院および県内外の研修指定病院の研修医となります。
看護学科卒業生は、看護師として本学医学部附属病院および県内外の病院に、或いは保健師として県内外の市町村、保健所等に就職し、一部は大学院へ進学します。

工学部

(民間) 一宮工務店、奥村組、四電工、大林組、中電工、戸田建設、大成建設、帝人エンジニアリング、味の素食品、帝人、クラレ、リブドゥコーポレーション、ハリマ化成グループ、太陽石油、日亜化学工業、日本製鋼所、JFEスチール、リョービ、アテックス、ヒカリ、フジテック、井関農機、三浦工業、三菱重工業、出雲村田製作所、マイクロンメモリジャパン、マキタ、三菱電機、アドヴィックス、マツダ、三菱自動車エンジニアリング、三菱自動車工業、川崎重工業、浅川造船、アイリスオーヤマ、大王製紙、四国電力、四国電力送配電、中国電力ネットワーク、東京電力ホールディングス、NTTデータ四国、NTTデータアイ、SHIFT、いよぎんコンピュータサービス、ソフトクリエイイトホールディングス、ドコモCS四国、西広、日立ソリューションズ、両備システムズ、NECプラットフォームズ、デジタル・インフォメーション・テクノロジー、西日本電信電話、愛媛銀行、広島銀行、カチタス、港湾空港総合技術センター、日本原子力研究開発機構、ウエスコ、荒谷建設コンサルタント、四電技術コンサルタント、芙蓉コンサルタント、スミメックエンジニアリング、四電エンジニアリング、西日本高速道路エンジニアリング中国、中電技術コンサルタント 他

(公務員) デジタル庁、国土交通省、四国地方整備局、防衛省、愛媛県、愛媛県(総合土木)、宇和島市(土木職)、新居浜市(土木技術)、東温市(土木)、徳島県(総合土木) 他

農学部

(民間) 大林組、あわしま堂、フジパン、不二家、オタフクソース、サントリーホールディングス、スジャータめいらく、チチヤス、プリマハム、マルトモ、四国乳業、日本食研ホールディングス、ゼブラ、太陽石油、三浦工業、松山市農業共同組合 他

(公務員) 公安調査庁、内閣府、林野庁、愛媛県、愛媛県(総合土木)、愛媛県(農業)、岡山県(農業土木)、広島県、広島県(総合土木)、広島県(農業)、香川県、松山市、鳥取県(農業)、兵庫県(農学) 他

(備考) 令和7年5月1日現在

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
法文学部（昼）	283人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
法文学部（夜）	97人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
教育学部	165人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
社会共創学部	188人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
理学部	227人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
医学部	172人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
工学部	505人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
農学部	181人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	1818人 (100%)	1559人 (85.8%)	203人 (11.2%)	56人 (3.1%)	0人 (%)
(備考) ・令和7年5月1日現在 ・医学部医学科以外の入学者数は令和3年度の1年次入学者数 (医学部医学科は平成31年度の1年次入学者数)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>次の情報を大学ホームページで公表しています。</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/information/education-infor/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） ・シラバス検索 ・授業日程 ・授業時限
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>次の情報を大学ホームページで公表しています。</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/information/education-infor/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するガイド（履修および単位について） ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） ・取得可能な学位 ・卒業・修了に必要な修得単位数 				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法文学部	人文社会科学 (昼)	127 単位	有	単位
	人文社会科学 (夜)	125 単位	有	単位

教育学部	学校教育教員養成課程	130 単位	有	単位
社会共創学部	産業マネジメント学科	124 単位	有	単位
	産業イノベーション学科	124 単位	有	単位
	環境デザイン学科	124 単位	有	単位
	地域資源マネジメント学科	124 単位	有	単位
理学部	理学科	124 単位	有	単位
医学部	医学科	198 単位	有	単位
	看護学科	124 単位	有	単位
工学部	工学科	124 単位	有	単位
農学部	食料生産学科	125 単位	有	単位
	生命機能学科	125 単位	有	単位
	生物環境学科	125 単位	有	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/credit/ ・学生自身による学生プロセス及び達成状況の自己管理に役立てる。 ・教員による学生の履修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行う。		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/education/achievement/ 学生が実際に執筆した論文や、成果発表時の動画等の学習成果を公開している。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ>教育情報の公表>(7)キャンパス施設・整備、学生の自主的活動
<https://www.ehime-u.ac.jp/information/education-infor/>
 愛媛大学概要（冊子及び大学ホームページ）
<https://www.ehime-u.ac.jp/ebook/outline2025>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法文学部	人文社会学科 (昼)	535,800 円	282,000 円	64,660 円	その他の経費とは、学生教育研究災害傷害保険料および校友会並びに後援会費等の合計金額。金額は、変更される場合があります。
教育学部	学校教育 教員養成課程			64,660 円	
社会共創 学部	産業マネジメント学科			64,660 円	
	産業イノベーション学科				
	環境デザイン学科				
	地域資源マネジメント学科				
理学部	理学科			64,660 円	
医学部	医学科			155,800 円	
	看護学科			86,370 円	
工学部	工学科			64,660 円	
農学部	食料生産学科			70,660 円	
	生命機能学科				
	生物環境学科				
法文学部	人文社会学科 (夜)	267,900 円	141,000 円	62,760 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>入学時に全ての学生に配置された「学生生活担当教員」が、学生の成績や履歴登録情報が登録された修学支援システムを参照しながら、指導・助言を行っています。</p> <p>また、各教員はオフィスアワーを設定しており、学生は予約なしで研究室を訪問することができます。さらに、学習支援ルームを設置し、大学院生のスタディ・アドバイザーや学習支援アドバイザーが、学習の具体的な悩みを聞きながら学習支援を行っています。</p> <p>施設面では、図書館に加えて各学部等に自習室等を設置するとともに、授業のない時間帯の教室を開放して学習できる環境を整えています。</p> <p>なお、日本学生支援機構の給付奨学金の採用候補者に対しては、入学料及び前期分授業料の徴収を猶予する取組を実施しており、条件として、4月上旬に給付奨学金を申し込む予定であることを確認し、5月上旬までに給付奨学金の申込みを完了したことが確認できれば、8月上旬の結果通知まで入学料及び前期分授業料の徴収を猶予しています。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>就職ガイダンス、就職セミナー、キャリア支援セミナーなどの情報提供に加えて、愛媛大学生を採用したい企業にご参加いただき、学内合同企業説明会を開催するなど、貴重な機会の提供を行っています。また、エントリーシートや面接などの具体的な相談に対し、キャリア・アドバイザーが一人ひとりに合わせたきめ細かなアドバイスを行っています。なお、学生が自宅等で支援を受けることができるよう、LMS 上での就職情報の公開や SNS での情報発信、一部ガイダンスのオンライン化、電話や WEB 会議システムを用いた就職相談も実施しています。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>医師・看護師が常駐する「総合健康センター」では、急病・ケガ等の処置を行うとともに、心身の不調や学生生活の悩み等に対して精神科医や臨床心理士が相談に応じる「こころの相談」窓口を設置しています。加えて、対面や WEB でも幅広く相談を受ける「何でも相談窓口」や、学習・就職に関する相談窓口など、様々な相談窓口を設置しています。また、近年増加しているハラスメントや悪質な勧誘等に対する安全対策教育の取組も強化しています。合理的配慮が必要な学生の支援は、在学生の協力を得ながら行っています。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ 教育情報の公表

<https://www.ehime-u.ac.jp/information/education-infor/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

【総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み①】

入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び

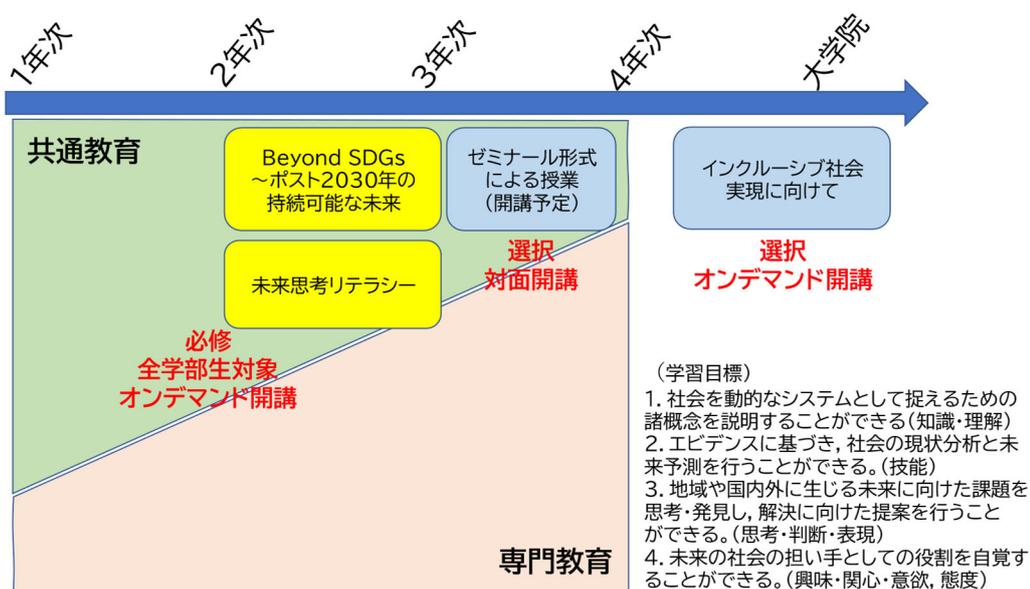
1. 共通教育（全学学生が1年次、2年次に履修）

共通教育のカリキュラムは、「学士基礎力」の育成を目指して編成されており、専門教育の礎となる「初年次科目」、「基礎科目」、「未来思考支援科目」及び「教養科目」を置き、文理横断型の教育を行い、複線的・多面的な学びを展開している。

令和5年度に導入した「未来思考支援科目」は、「変化の時代を生き抜き、世界的課題を理解して地域や国内外に生じる未来に向けた課題解決に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける」ことを目的とした科目群である。

本科目群には、世界的課題解決に向けた2030年のゴールであるSDGsについて理解する「Beyond SDGs」、そして未来社会に関する予測や展望を描き行動するための方法論を学ぶ「未来思考リテラシー」という2つの全学部生対象の必修科目が含まれている。「未来思考支援科目」は、未来社会の構想・設計力を身につけるリベラルアーツ教育として、地域創生、持続可能な社会の実現、世界的課題の解決を推進する人材の育成を図るものである。

「未来思考支援科目」概要図



2. 学際的なプログラム

工学部工学科社会デザインコースでは、別枠「文理型入試」を実施し、積極的に文系学生の入学を受け入れ、自己の学びを社会に活用するための協働力と課題解決力を育成するために学部共通 PBL 等を実施している。また、社会共創学部においても、「専門力育成科目群」として文理に限らず、他学部、他学科の科目も履修できる複合

的な教育課程を設置している。こうして、特定の社会課題に取り組む学際的なプログラムを実施し、文系と理系の知識を統合して問題解決に挑むことを目指すほか、自然科学や社会科学の枠を超えた文理融合型の教育・研究展開と、地域ステークホルダーの参画による協働、トランスディシプリナリー教育・研究に取り組んでいる。

3. 分野横断型なプロジェクトと人材育成

社会共創学部や工学部においては、学生が専攻の枠を超えて参加できるプロジェクトや研究活動を推奨しており、地域課題に取り組むプロジェクトでは、文系の学生が地域文化や社会の視点を提供し、理系の学生が技術的な解決策を提案するなど、多面的なアプローチができる体制を整えている。このように、課題設定して探究するという基本的思考の枠組みを身につけるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養を見つけた人材育成につながっている。

4. インターンシップや実習

インターンシップや実習の機会を多く提供し、実社会での経験を積むことで、学内で学んだ知識を実践に応用する力を養っている。法文学部や社会共創学部では、地域企業や自治体と連携したプログラムが多く、地域社会に貢献する姿勢を重視している。

5. 新しい形の大学院の設置

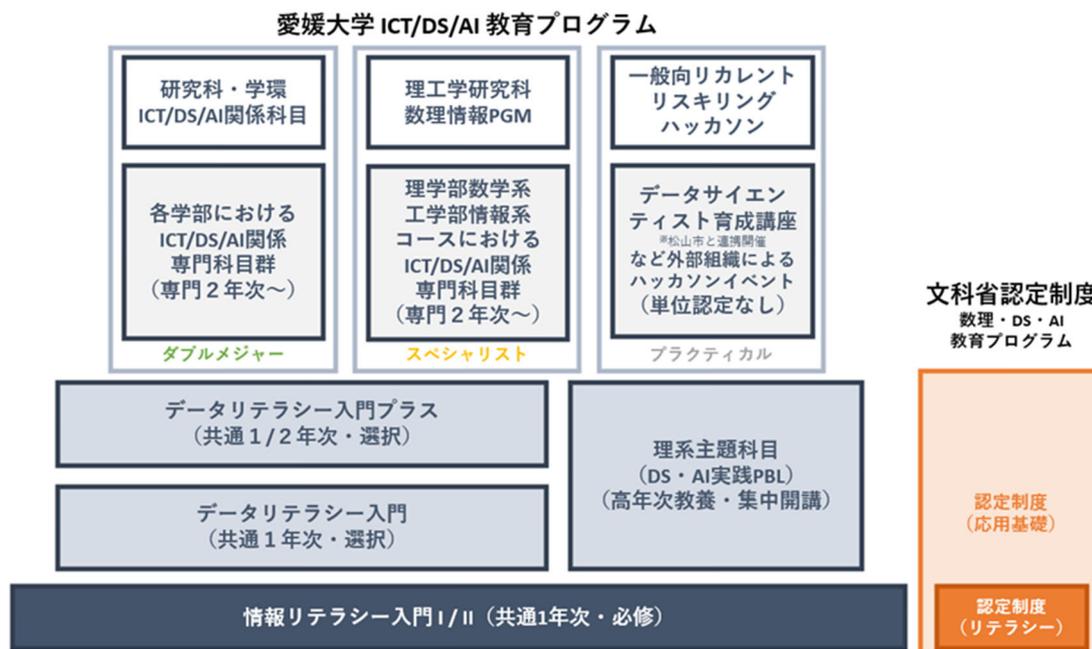
令和5年4月に設置した「大学院地域レジリエンス学環」は、本学が持つ5つの研究科の連携協力からなるもので、文理各教員が指導に当たることにより、既存の学問分野を横断的・複合的に学び、実践的能力を身に付けるための教育を行っている。特に実践科目ではプロジェクト形式の実習における「分野横断指導チーム」の複眼的・俯瞰的指導を通じ、地域をフィールドにした協働力及び実践力を涵養する。

【総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み②】

全学的なデータサイエンス教育の実施

本学では令和2年度から数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの知識及び技術について、全学の学生を対象に全学必修科目2科目、選択必修科目1科目の3科目3単位からなる「愛媛大学 ICT/DS/AI 教育プログラム (リテラシー)」を実施しており、令和3年度に、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」に認定されている。また、令和5年度からは、授業内容を再構成し、全学必修科目2科目2単位での履修・修了が可能となるようにした。

あわせて令和5年度から全学の学生を対象に「愛媛大学 ICT/DS/AI 教育プログラム (アドバンスリテラシー)」の実施を開始し、令和6年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (応用基礎レベル)」に認定された。



(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F138110110382
学校名 (〇〇大学 等)	愛媛大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人愛媛大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		847人（ ）人	860人（ ）人	904人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	460人	467人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	219人	197人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	125人	139人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	43人	57人	
区分外（多子世帯）	人	人		
家計急変による 支援対象者（年間）				-
合計（年間）				911人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	15人	人	人
計	23人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	-	前半期	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	20人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	87人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-	人	人
計	88人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。